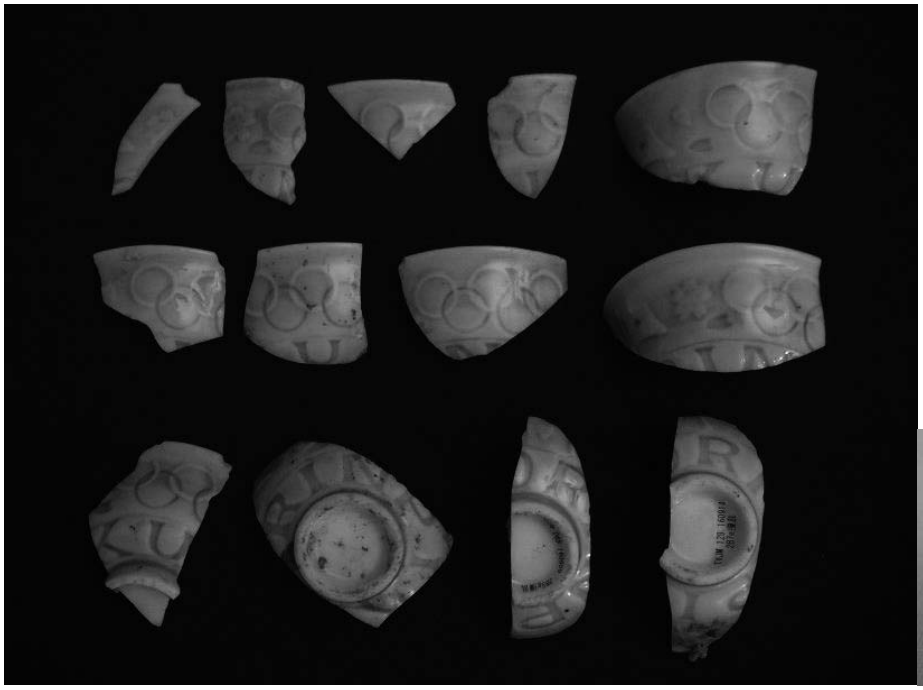
Online edition：ISSN　2432-5007
Print edition　：ISSN　2188-5699

富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報　No.１９

富山市の遺跡物語



出土した幻の東京オリンピック記念盃

完形品（個人蔵）

総曲輪3丁目地内で実施した富山城下町遺跡主要部の発掘調査で、富山大空襲前まであった陶器商跡から、大量（破片で約4,500点）の酒盃が出土しました。その中に、昭和15（1940）年に開催される予定だった幻の東京オリンピック記念盃が破片で13点あることが判明しました。美濃焼で「ORINPIKU」、オリンピックマーク（五輪）、日章旗、桜花文の絵が象られています。

アジアで初めて開催されるオリンピック大会の機運の盛り上がりが、東京から離れた富山などの地方都市にも広まっていたことを物語る貴重な資料です。

目　次

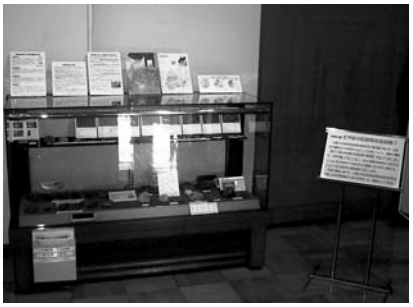
史跡この１年　2
埋蔵文化財発掘調査概要報告　7
平成29年度事業概要
Ⅰ　埋蔵文化財調査　10
Ⅱ　遺跡地図管理　17
Ⅲ　史跡の保護・管理　18
Ⅳ　展示・普及　22
Ⅴ　刊行物　25
Ⅵ　活用　25
Ⅶ　調査研究　26
Ⅷ　研修等参加　29
Ⅸ　寄贈　29
Ⅹ　事務所移転　30
ⅩⅠ　組織・事業費　30
講演記録　富山城下町から出土した陶磁器と生活（佐々木達夫）　31
研究報告１　境野新遺跡の再評価と古沢塚山古墳の出現（小黒智久）　37
研究報告２　諸国での人面墨書土器出土状況について（堀沢祐一）　38
研究報告３　富山藩家老富田氏下屋敷跡出土恵比須土面について(鹿島昌也・宮田康之)　45
研究報告４　生産地と消費地における越中丸山焼の火鉢について（宮田康之）　49

北代縄文広場この1年ー平成29年度ー

7年間取り組んできた復原建物等の再整備事業が平成28年度に完了したことを受け、平成29年度は広場のさらなる魅力を創造するため、新規講座等を開始しました（以下の◎部分）。

●北代縄文館ミニ企画展「とやまの石器研究最前線！」（6/6～12/17）を開催しました

遺跡から出土した石器の石材を肉眼観察のみで同定することは、容易ではありません。石器石材の岩石学的検討の重要性は考古学研究でも高まっています。本展では、台湾の中央研究院地球科学研究所の飯塚義之博士による最新の石器石材研究を紹介しました。飯塚氏は、史跡北代遺跡・小竹貝塚出土石器について、近年普及しつつある携行型蛍光エックス線分析装置を用い、一部の石器は補足的に研究所の走査型電子顕微鏡も用いて岩石学的に同定しました。その結果、磨製石斧の多くがネフライト製であることを明らかにされました。期間中、富山市埋蔵文化財センター学芸員による展示解説会のほか、富山市科学博物館の増渕主任学芸員によるワークショップ“石器石材の特性を知ろう！”、飯塚氏による記念講演会「完全非破壊分析による石器石材分析の最前線～富山市小竹貝塚出土石器を中心に～」を開催しました。



展示状態

ワークショップ（8/26）

記念講演会（11/18）

●北代縄文館ミニ企画展「縄文人の食生活」（会期末：平成30年5月27日）を開催しています

日本海側最大級の富山市小竹貝塚出土魚骨等（縄文時代前期）の分析から、遺跡を残した縄文人は旧放生津潟や周辺の河川に加え、富山湾に生息する魚類なども捕獲していたことがわかりました。

小竹貝塚では、温帯・熱帯海域に生息する暖海性のサメ類であるシロワニの歯が確認されていることも注目されます。シロワニは現在、東シナ海に生息しており、日本海では生息が確認されていません。これまでは主に貝類の分布の変化から縄文時代前期に地球規模で温暖化したことが指摘されてきましたが、小竹貝塚のシロワニからも当時の地球温暖化が示唆されるのです。

展示状態

◎北代縄文考古楽講座を開講しました

北代遺跡の発見から110年目となる平成29年に、史跡北代遺跡の新たな魅力の発見に向けて、富山市埋蔵文化財センター学芸員や富山市科学博物館南部専門官を講師として、全4回の北代縄文考古楽講座を開講しました（Ⅲ－1－(3)参照）。受講生にとって考古学を楽しむ講座となることを目指して、「考古学」ではなく、「考古楽」という字をあてました。

講座では疑問点等が生じたその都度、質疑応答を行

第1回「北代縄文考古楽講座への誘（いざな）い」

うこととしました。受講生と講師、受講生間でいつでも気楽に自身の意見を述べ合う双方向の関係によって、地域に根ざした生涯学習に自ら取り組む機会を設けることを意図したものです。このような学習方法を採ることによって、受講生が共に学び、楽しむきっかけになることを願っています。

なお、第2回講座後にアンケート調査を行ったところ、半数の受講生から回答いただきました。講座の満足度（満足とやや満足の合計）は90%で、講座の形式は現状維持を求める意見が85%、講座の難易度は現状維持を求める意見が65%、講座の内容も現状維持を求める意見が85%でした。

南部専門官による現生イルカ標本解説（第3回）

◎「文化の秋の縄文土器づくり」、「文化の秋の縄文土器づくり作品展2017」を開催しました

10月に全4回講座で、5名の参加者が史跡北代遺跡出土品をモチーフとした実物大の有孔鍔付土器づくりに挑戦しました。じっくり観察して縄文人の造形を再現し、丁寧に磨き上げました。十分乾燥させて野焼きを行い、赤色顔料を塗布して当時の姿に迫りました。完成した作品は、北代縄文館で展示しました。

作品制作の一コマ

作品展（11/7～11/19）

◎悠久の森2017連携事業「みんなで縄文時代を学ぼう！」を開催しました（8月、全4回）

夏休みイベントとして、紙芝居で縄文時代を学び、磨製石斧や縄文土器の観察、模造石斧による擬似伐採体験、縄文土器づくり体験などを行いました。

紙芝居で縄文時代を学ぶ

模造石斧での擬似伐採体験

●奥田中学校・呉羽中学校の生徒が復元建物の補修等を行いました

学校外で職場体験活動に参加する「社会に学ぶ『14 歳の挑戦』」の一環として、中学生が北代縄文広場で体験活動しました。復元建物の部分補修のほか、広場の解説案内、体験学習用粘土の調整、敷地内の除草・清掃といった体験活動をボランティアの会や広場管理人の指導を受けて行いました。体験活動をとおして、生徒は自ら積極的に行動できるようになり、学校生活でも活かしたいとの感想を抱いたようです。　（小黒智久）

土屋根表面の補修

北代縄文館展示ケースの清掃

婦中安田城跡歴史の広場この1年ー平成29年度ー

婦中安田城跡歴史の広場は、歴史学習だけでなく、四季折々の風景が楽しめる憩いの場となっています。

色とりどりに咲く睡蓮の名所でもあり、今年も花が見頃となる5～6月には4,000人を超える人々が来場されて賑わいました。

広場の来場者はここ 10 年増加しており、年間では17,000 人を超える方々にご来場いただいています。今後も多くの方に愛される広場であるよう、職員一同努めて参りたいと思います。

●夏休み子ども歴史講座「秀吉と成政の戦いを見つめた城 安田城」

平成 29 年 7 月 28 日､小学生と保護者計 50 名が安田城の歴史や特徴を学びました。講師には、児童に分かりやすく説明する技術があり、児童にとって身近で親しみやすい存在であるということから、市内の小学校教員と教員ＯＢの方にお越しいただきました。(講師：神通碧小学校堀泰洋先生、東部小学校舟川宗吾先生、八尾小学校前田雄一郎先生、指導補助ボランティア：角田睦美先生、木本眞知子先生、杉森慶子先生)

まず資料館では、安田城は豊臣秀吉の全国統一に関係し、白鳥城・大峪城とともに富山城の佐々成政を攻める前線基地となった城であるとの解説を聞いた後、城の歴史を映像で学習しました。

次に城跡でのフィールドワークを行いました。外周を歩くと、周囲が堀で囲まれ、3 つの曲輪を幅の狭い橋でつないだ安田城の構造が観察できました。先生からは「こうした構造は、味方からは守りやすく敵からは攻めにくくするために計算されたものです」との説明がありました。急傾斜の土塁に上ると、土塁が壁となって敵の侵入を防ぐだけでなく、上から敵兵を狙い撃ちするのにも有効だったことが分かりました。土塁のはぎとり断面の観察では、幾重にも土を積み重ねて、高くて頑丈な土塁を築こうとした戦国時代の人々の技術や苦労を感じ取ることができました。

最後は資料館に戻り、自分の言葉でレポートにまとめることで城への理解を深めました。フィールドワークで聞いた「本丸と二の丸の間を木橋にしたのは、敵兵が攻め込んで来た時に壊して通れなくして、城で最も大切な本丸を守るためだったのでしょう」という先生の説明がとても印象に残ったようで、レポートに「いざという時に備えて様々な工夫が施されていることを知って驚いた」と書いた児童が多くいました。

講座の最後に、先生から「今日の講座で予想以上のことが見つかった人」と呼び掛けられると、過半数の児童が手を挙げました。

レポートは、後日レポート集としてまとめ、参加者に配布しました。身近にある城の歴史を学ぶことで、郷土への誇りや愛着の醸成へと繋がれば幸いです。

●安田城跡再整備準備検討事業

富山市婦中安田城跡歴史の広場は、平成 2～4 年度に整備工事を行い、平成 5 年 5 月に開場しました。開場後 24 年が経過し、堀をはじめとした施設の著しい老朽化が認められるなど様々な問題を抱えており、再整備による改修工事や堀の浚渫等により、抜本的な解決を図ることが必要です。

このため、史跡を適切に保存し、公開に適した状態で長く維持するため、各分野の専門家 7 名（考古学・建築、戦国史、水利、水質・環境、地盤工学、植物環境、公園整備）からなる「安田城跡再整備準備検討会議」を組織し、計 2 回の会議（平成 29 年 9 月 12 日、平成 30 年 2 月 21 日）を開催しました。

会議では、施設の長寿命化対策や堀の活用等に関する再整備の基本方針（案）等について、考古学以外からの知見も踏まえた検討を行いました。平成 30 年度には、本会議での検討結果を反映させた再整備基本計画を策定する予定です。

安田城跡再整備準備検討会議専門家（敬称略）

氏名	専門分野	所属
西井　龍儀	考古学・建築	富山考古学会長（H30 から理事）、一級建築士
高岡　　徹	戦国史	とやま歴史的環境づくり研究会代表、越中史壇会会員
廣瀬　慎一	多自然水路工法・農業農村整備	庄西用水土地改良区理事長、農学博士
奥川　光治	水質・環境学、環境工学	富山県立大学工学部環境・社会基盤工学科准教授
古谷　　元	地盤工学	富山県立大学工学部環境・社会基盤工学科准教授
中田　政司	植物環境	富山県中央植物園長
笹岡　　覚	公園整備	富山市公園緑地課長

●ミニ企画展「秀吉の越中出陣前後の婦負－白鳥城・安田城・大峪城・安養坊砦、そして富山城－」

天正 13 年（1585）、羽柴（後の豊臣）秀吉は富山城主の佐々成政を討つための越中出陣、世にいう「佐々攻め」を行いました。本展では、富山市郷土博物館が近年取り組んでいる定説の再検討の成果も積極的に取り入れながら、総勢 7 万人にもおよぶ大軍を動員した越中出陣にかかわる富山市域の城や砦などの様相について、発掘資料や縄張り図等をとおして紹介しました。

1 月 27 日の展示解説会では、学芸員が、中世富山城の堀に投棄された焼失廃材は、永禄 3 年（1560）に長尾景虎が神保長職の居城である富山城を攻めた際、長職が増山城に退避する前に自ら火を放って敵方が城を使えないようにした「自焼没落」を示す物的証拠であるという新見解を踏まえながら、展示品について解説しました。

3 月 10 日には、富山市郷土博物館の萩原大輔主任学芸員を講師に招き、関連講座「白鳥城は秀吉の本陣か？～「佐々攻め」を捉えなおす～」を開催しました。秀吉の越中出陣について、史料を丹念に読み解き、新たな事実を掘り起こして通説を捉えなおそうと意欲的に取り組む新進気鋭の研究者の話に、参加者は熱心に聞き入っていました。　　（大野英子）

境野新遺跡公園の環境整備事業

平成29年9月8日～10月11日に境野新遺跡公園(古沢地区)の環境整備事業を行いました。

●昭和48年度の遺跡公園整備に至る経過

昭和47（1972）年9月、古沢用水土地改良区が行っていた農業構造改善事業地で境野新遺跡が発見されました。工事中止の協力を得て、未着工部分で予備調査を行い、住居跡と思われる2ヶ所が確認されました。その2ヶ所の発掘調査を昭和47年11～12月に行った結果、富山県内では稀な古墳時代中期（5世紀）の竪穴住居跡と判明しました。

古沢・池多地区住民の間で保存を訴える声があがり、富山市議会の視察も行われました。このような状況を踏まえ、古沢用水土地改良区と富山市教育委員会が協議を行い、富山市で保存を図ることとなり、昭和48年4～5月に公園整備工事を行いました。境野新遺跡公園は、富山市が遺跡を公有化して保存し、整備した初めての事例です。工事では2ヶ所の竪穴住居跡を盛土保存したうえで平面表示したほか、散策用の飛石を設け、芝を張り、植樹しました。昭和55年、現地に案内板を設置し、以後も富山市考古資料館での出土品展示に加え、埋蔵文化財センターホームページでも遺跡の情報を発信してきました。

第1号住居跡

盛土保存作業

●平成29年度の環境整備事業の概要

平成28年度に、昭和48年の整備当時の状態に戻すことを主眼とした環境整備の検討を開始し、供用後に形成された表土の厚さを確認するなどの現状把握を行いました。平成29年秋に重機で表土を漉き取り、排水勾配を整えながら整地しました。散策用の飛石を露出させ、歩きやすいように配置し直し、不足分は補充しました。現在でも北陸では稀な5世紀前葉の竪穴住居跡に思いを馳せていただくため、平面表示部分を近くから見学できるよう、法面に防草シートを敷設した後、四周には砂利を敷設して散策路としました。‘呉羽丘陵フットパス’沿いの中期前方後円墳である古沢塚山古墳（37p参照）とあわせ、生涯学習の場として今後も境野新遺跡公園が活用されることを願っています。

環境整備事業を終えた境野新遺跡公園

●古沢地区健康展（平成29年10月26・27日、富山市立古沢公民館）等での展示

「境野新遺跡・古沢塚山古墳展」を出展し、環境整備事業や両遺跡の歴史的意義を紹介しました。調査に参加された方など、約170名がお越しになり、好評と共に懐かしむ声が寄せられました。境野新町内会の文化祭でも展示されました。（小黒智久）

古沢地区健康展への出展

展示解説（古沢公民館提供）

調査概要報告１　奈良・平安時代の拠点集落か！？　黒瀬大屋遺跡（くろせおおやいせき）

１　遺跡のあらまし

（黒瀬地内）

この遺跡は、富山市中心部から5km南方の富山市黒瀬・黒崎地内に位置します。標高17～18mの熊野川と土川に挟まれた氾濫平野・緩扇状地に東西600m、南北700mの範囲で広がる弥生時代後期から近世の集落跡です。

調査区遠景（東から）

この遺跡では、ほぼ毎年試掘調査や工事立会が行われ、主要な時期は奈良・平安時代であることが分かっています。遺跡内での発掘調査は今回の調査を除き過去3度実施しています。平成15年度には遺跡南中部の共同住宅建設に伴う発掘調査で、古代の井戸・土坑を検出し、土師器・須恵器・曲物・箸状木製品、珠洲が出土しました。平成18年度には遺跡中東部の賃貸住宅建設に伴う発掘調査で、古代ピット・溝・土坑、中世土坑を検出し、土師器・須恵器、中世土師器・青磁、近世陶磁器が出土しました。平成21年度には遺跡中西部の個人住宅建築に伴う発掘調査で、古墳時代の土坑、白鳳時代の溝、鎌倉～室町時代の溝を検出し、古墳土師器、白鳳時代の土師器・須恵器、奈良・平安時代の土師器・須恵器・緑釉陶器、中世土師器・珠洲、越中瀬戸焼が出土しました。調査結果から、古墳時代には小規模な集落が営まれ、白鳳時代には集落の縁辺部と推定されています。鎌倉時代の遺構・遺物は南に近接する黒崎種田遺跡との関連が推測されます。

２　調査の概要

宅地開発に伴い、道路部分と擁壁部分432.57㎡の発掘調査を行いました。調査の結果、奈良・平安時代（約1200～1000年前）の竪穴建物2棟、庇（ひさし）付掘立柱建物1棟、溝、土坑、ピットが見つかりました。遺構は出土遺物の時期差から、Ⅰ期（8世紀後半～9世紀前半）、Ⅱ期（9世紀中頃～後半）、Ⅲ期（9世紀後半～10世紀初め）の3時期あると考えられます。

庇付掘立柱建物完掘状況（北から）

出土遺物は、土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、青磁、近世陶磁器、不明木製品、砥石、土錘（どすい）、墨書土器21点・刻書土器1点があります。

３　任海宮田遺跡と関連のある拠点的集落か

庇付掘立柱建物は、構造は軸が南北方向で、東側に庇が付く２間×２間の建物です。建物の規模は東西5.03m×南北5.19mです。建物の時期は出土遺物から見て9世紀後半～末頃になります。遺物は土師器が多く出土しました。建物の性格は、規模からみて高床倉庫などの収蔵施設ではなく、平地式に近い構造で住居や倉庫以外の建物が考えられます。

出土遺物には21点の墨書土器、1点の刻書土器があります。文字資料のうち「中田」と読める墨書土器が4点出土し、墨書土器の20%を占めます。この他緑釉陶器、灰釉陶器といった特定階層が使用する土器や、土錘も出土しました。集落の性格は、出土遺物の種類から見て、この遺跡の南にある任海宮田遺跡と同様な拠点的集落の可能性があります。（細辻嘉門）

調査概要報告２　富山城搦手土橋の遺構を確認

１　遺跡のあらまし　（本丸地内）

調査地は、富山城の搦手門南石垣の東側にあたります。現在は富山城址公園（富山市佐藤記念美術館側）への進入路になっていますが、昭和 29 年の富山産業大博覧会前までは、本丸の裏門である搦手と東出丸を繋ぐ土橋があり、その南北に内堀が巡っていました。

２　調査の概要

まちなか体験施設新築工事に先立ち、樹木の抜根に伴う工事立会および試掘調査を実施したところ､現地表下 40 ㎝付近から大小の石材が 20 点以上出土しました。大きなもので、長さ 90 ㎝、直径 50 ㎝を測ります。中には、地表面を覆うために用いた平らな石もみられます。搦手土橋の南肩付近を被覆するための石材だったとみられます。また、この石材が集中する地区の西側に設定した南北方向の試掘トレンチから、新旧 3 時期の土橋に関連する遺構を確認しました｡①戦後昭和 29 年の富山産業大博覧会開催前までの土橋、②江戸幕末期～明治期の土橋、③中世～江戸後期の遺構面・土橋です。②に伴って土橋の斜面を護岸する為の長細い石材（長さ 50 ㎝、直径 20 ㎝）を用いた石積みが一部残っていました。

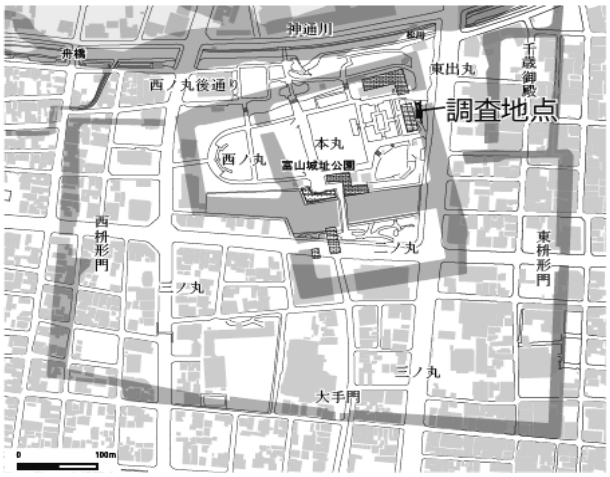
石材集中地点（南東から）

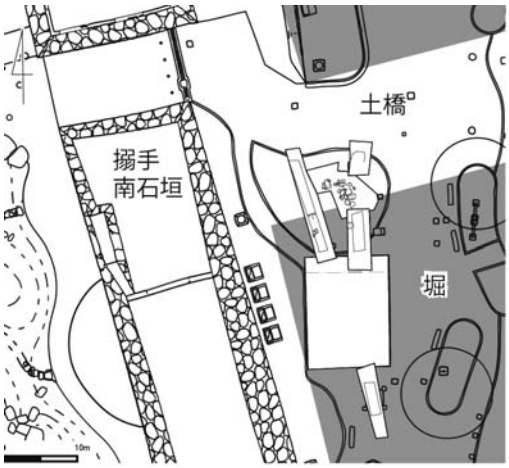
搦手土橋の南肩護岸石材検出状況

３　搦手土橋の位置を確認

今回の調査で、搦手土橋の上幅（南北）が約 12ｍあったことが判明しました｡江戸時代の絵図等から凡その土橋の位置は推測されていましたが、今回の調査によって位置を特定し、構造の一部が確認できただけでなく、土橋が改修を繰り返しながら使用されていたことが判りました。

（鹿島昌也・納屋内高史）





調査地点とその平面図

調査概要報告３　陶磁器焼成の作業場跡

１　遺跡のあらまし　（八尾町丸山地内）

この遺跡は、江戸時代後期（文政 12 年あるいは天保元年）に甚左衛門によって開窯された陶磁器生産跡で、明治 27 年頃まで操業していました。昭和 38 年には富山県の三大名窯の一つとして窯跡が現存しており、文化遺産として保存するために八尾町指定文化財（史跡）第 1 号に指定されました。現在は富山市指定文化財となっています。今回の発掘調査地は窯跡のある市史跡指定地から北西に約 70ｍの地点で、標高は 102ｍ前後を測ります。

２　調査の概要

個人住宅新築工事に伴い、57.3 ㎡を対象に、住宅の基礎工事部分、配管部分の発掘調査を実施しました。出土品には越中丸山焼の釉薬が掛かる前の素焼き品（鉢・鍋・碗・皿など）や瓦、焼成に用いた匣鉢、焼台など越中丸山焼の焼成に関連する遺物が多数みられます。これらは、焼土や炭などを含む土坑や溝などから出土しました。

発掘調査地全景（西から）

３　陶磁器焼成の作業場跡

調査地は 100 年ほど建っていた民家の跡地で、丘陵の斜面に平坦面を造りだしています。表土直下から遺構や遺物がみつかり、越中丸山焼窯が操業していた頃と殆（ほとん）ど地形が変わっていないようです。平成 6 年には北隣で宅地造成に伴う調査が実施され、物原（ものはら）と呼ばれる焼成に失敗した陶磁器片の廃棄層が確認されています(富山県埋蔵文化財センター1995)。

焼台など出土状況（上が北）

本調査区は地山面が一部削平を受けているところもありますが、多数の匣鉢（さやばち）や素焼きの製品、焼台が出土していることから、焼成に関連する作業場であったことが推測されます。中には釉薬の掛かった灯明受皿などもみられますが、作業に関連して職人などが使用した製品と推測できます。興味深いのは、匣鉢の底部に多数の稲の籾殻痕が残っていることです。籾殻を敷いた作業台の上で匣鉢を製作していたとみられ、稲刈り後の秋以降に作業を行っていたことを物語っています。江戸後期から富山藩の産業振興政策の一つとして隆盛した越中丸山焼の生産の一端を明らかにすることができました。　（鹿島昌也）

文献

富山県埋蔵文化財センター1995『富山県埋蔵文化財センター年報平成 6 年度』

調査概要報告４　近世富山城西外堀跡

富山城跡（とやまじょうあと）

１　遺跡のあらまし　（丸の内２丁目地内）

この城跡は、富山市街地中心部に位置し、藩政期富山城本丸・西ノ丸跡が現在の富山城址公園となっています。

慶長 10(1605)年、加賀藩 2 代藩主前田利長（としなが）が隠居城として、富山城を整備しました（慶長期富山城）。しかし、4 年後の大火で城は焼失してしまいました。その後、寛永 16(1639)年、前田利次（としつぐ）に加賀藩から 10 万石が分与され、富山藩が成立し、翌年利次は、富山城に入城しました。寛文元(1661)年に利次は仮居していた富山城を修理し、以後、城は富山藩主の居城となりました（藩政期富山城）。

明治 4(1871)年の廃藩置県（はいはんちけん）後に本丸御殿や二ノ丸二階櫓（やぐら）御門は解体され、外堀と内堀の一部は埋められました。また、二ノ丸・三ノ丸跡は民間に払い下げられました。

２　調査の概要

旧北陸道である一般県道小竹・諏訪川原線の南側延長線上にある市道区画街路第 1506 号線に面する東側で試掘調査を行いました。

調査の結果、道路境界から東約 16m 地点までの間に深い落ち込みを確認しました。この落ち込みは、旧北陸道の東側にあった近世富山城跡の西外堀跡と考えられ、今回初めて調査で西外堀跡を確認しました。堀の埋土からは、江戸時代の漆器、下駄、曲物（まげもの）などの木製品が出土しました。

堀に廃棄された西桝形門の石垣石材

西外堀の東側法面（のりめん）の角度は約 35 度であり、平成 26 年度発掘調査で確認した南外堀の北側法面と同じ角度であったことが分かりました。

また東側法面には長軸 60 ㎝の楕円形の玉石 3 石（安山岩 1 石、花崗岩（かこうがん）2 石）が廃棄されており、花崗岩の 1 石は小面（こづら）を打ち欠いてありました。玉石上層部には裏込めの栗石（ぐりいし）の廃棄層を確認しました。調査区周辺には西桝形（ますがた）門があったと考えられ、見つかった玉石は西桝形門の石垣石材が廃棄されたものと推測されます。（堀内大介）

平成 29 年度事業概要

Ⅰ　埋蔵文化財調査

１　調査実績

発掘調査　開発に先立ち、遺跡を記録保存することなどを目的とした調査です

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(㎡)	調査結果	遺跡の種類
黒瀬大屋(2010549)	黒瀬	宅地造成	432.57	古代掘立柱建物、古代竪穴住居、古代溝、古代不明土坑／古代須恵器、古代土師器、古代緑釉陶器、古代灰釉陶器、古代土錘、古代内黒土師器、古代墨書、古代転用硯、中世珠洲	集落
計1件			432.57		
28年度 補遺(3月)					
越中丸山焼陶窯跡(2010862)	八尾町丸山	個人住宅建築	57.3	江戸～明治溝、江戸～明治土坑／江戸～明治越中丸山焼、江戸～明治焼台	その他の生産遺跡(越中丸山焼)

試掘調査　開発予定地内の遺跡の有無などを確認する調査です　＊は立会調査

遺 跡 名(遺跡No.)	所 在 地	調 査 原 因	面積(㎡)	調　査　結　果
打出(2010002)	打出字浜田	個人住宅建築	35.6	遺跡なし
四方北窪(2010004)	四方北窪	個人住宅建築	515.7	遺跡なし
四方北窪(2010004)	四方北窪字永代割	車庫建築	37.05	遺跡なし
岩瀬天神(2010005)＊	古志町	電柱建替	1	遺跡なし
日方江(2010011)	日方江字屋敷割	太陽光発電所建設	2,273.1	遺跡なし
呉羽本郷(2010016)	本郷中部	格納庫建築	181.51	遺跡なし
呉羽本郷(2010016)	本郷中部	小学校仮設校舎建設	805	遺跡なし
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	198	遺跡なし
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	493.74	遺跡なし
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	495.86	遺跡なし
今市(2010023)	八町中	乾燥調整施設建築	1,997	遺跡なし
今市(2010023)＊	寺島	寺島地区配水管布設替工事	350	中世土坑、中世溝／古代土師器、中世土師器
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	221.48	遺跡なし
今市(2010023)	布目	太陽光発電所建設	999.21	不明土師器
今市(2010023)	今市字居縄	工場増築	684	遺跡なし
今市(2010023)	八町	個人住宅建築	1,122.13	遺跡なし
四方背戸割(2010027)	四方荒屋	個人住宅建築	574.17	遺跡なし
蓮町(2010033)	蓮町5丁目	個人住宅建築	228.09	遺跡なし
蓮町(2010033)	蓮町5丁目	車庫建築	40	遺跡なし
米田大覚(2010034)＊	米田町2丁目	岩瀬幹線配水管布設替第2工区工事	657.2	遺跡なし
米田大覚(2010034)	米田町1丁目	公民館建築	684	江戸陶器
浜黒崎野田Ⅱ(2010043)	野田	特別養護老人ホーム改修	1,484.08	遺跡なし
浜黒崎野田Ⅱ(2010043)	浜黒崎	駐車場造成	1,032	遺跡なし
横越(2010046)	横越	駐車場造成	299	遺跡なし
針原中町Ⅱ(2010052)＊	針原中町字好西寺	車庫建築	21.96	遺跡なし
水橋荒町・辻ケ堂(2010056)＊	水橋辻ケ堂	市道水橋辻ケ堂新道6号線外1線改良工事	40	遺跡なし
水橋荒町・辻ケ堂(2010056)	水橋辻ケ堂	個人住宅建築	40	遺跡なし
水橋荒町・辻ケ堂(2010056)	水橋辻ケ堂	個人住宅建築	312.57	遺跡なし
水橋荒町・辻ケ堂(2010056)	水橋辻ケ堂	個人住宅建築	404.56	江戸瓦

遺 跡 名(遺跡No.)	所 在 地	調 査 原 因	面積(㎡)	調 査 結 果
水橋池田館 (2010059)	水橋肘崎	敷地舗装	72	遺跡なし
小出城跡 (2010066)	水橋小出	個人住宅建築	338.67	遺跡なし
願海寺城跡 (2010091)	願海寺	分譲宅地開発	1,076	遺跡なし
願海寺城跡 (2010091)	願海寺	個人住宅建築	495.93	遺跡なし
願海寺城跡 (2010091)＊	野々上	野々上地区配水管布設替工事	44	遺跡なし
願海寺城跡 (2010091)	願海寺字土副	幼稚園建築	3,217.13	遺跡なし
高木西 (2010093)	高木西	宅地開発	94,270	古代須恵器、江戸漆器椀
高木中坪 (2010094)＊	高木字中坪	携帯電話簡易無線基地局建設	12	遺跡なし
吉作(2010111)	住吉	駐車場整備	238	遺跡なし
赤島池 (2010134)	吉作	個人住宅建築	806	遺跡なし
追分茶屋長割Ⅱ (2010155)	追分茶屋	車庫建築	120	遺跡なし
茶屋町東 (2010177)＊	北代字西山割	呉羽山公園（展望台付近便所）施設整備・浄化槽設置工事	133	遺跡なし
呉羽富田町 (2010182)	北代字布口	個人住宅建築	481.66	不明土坑／弥生土器
呉羽富田町 (2010182)	北代字伊佐波	個人住宅建築	241.52	遺跡なし
北代加茂下Ⅲ (2010203)	北代新	個人住宅建築	218.22	遺跡なし
百塚住吉D (2010235)	宮尾	個人住宅建築	240	遺跡なし
豊丘町 (2010242)	高園町	個人住宅建築	90	遺跡なし
豊丘町 (2010242)	高園町	個人住宅建築	118.01	遺跡なし
豊田本町一丁目 (2010244)	豊田本町1丁目	集合住宅建築	747	弥生（終）弥生土器
豊田大塚・中吉原(2010246)	豊田本町3丁目	事務所建築	1,745	縄文（晩）縄文土器、古墳土師器
新屋殿田 (2010249)	新屋字殿田割	店舗建築	2,846	遺跡なし
下冨居 (2010250)＊	下冨居	車庫建築	34.3	江戸陶器
中冨居 (2010251)	上冨居2丁目	分譲宅地造成	2,118	遺跡なし
中冨居 (2010251)	上冨居3丁目	事務所建築	231.04	遺跡なし
中冨居 (2010251)	中冨居	共同住宅建築	801.08	遺跡なし
中冨居 (2010251)	中冨居	宅地造成	4,938	遺跡なし
飯野小百苅 (2010253)	飯野	富山跨線橋拡幅工事	635	古代溝／古代土師器、古代須恵器、中世土師器、江戸越中瀬戸、江戸伊万里
飯野小百苅 (2010253)	飯野	国道8号線富山跨線拡幅工事	1,893	江戸越中瀬戸、江戸伊万里

遺 跡 名(遺跡№)	所 在 地	調 査 原 因	面積(㎡)	調 査 結 果
水橋入部(2010263)＊	水橋入部町	水橋入部3号線改良工事	70	古代土師器
水橋金広・中馬場(2010286)＊	水橋中馬場	市道水橋金広中馬場線外1線改良工事	64	遺跡なし
田伏・佐野竹(2010298)＊	水橋田伏	市道水橋金広中馬場線外1線改良工事	93	中世珠洲
中老田南Ⅳ(2010337)	中老田	個人住宅建築	457	遺跡なし
下堤Ｂ(2010380)	古沢	個人住宅建築	954.58	遺跡なし
境野新(2010396)＊	境野新	境野新遺跡公園環境整備事業	762	遺跡なし
金屋古屋敷(2010420)＊	金屋	市道金屋21号線塗装工事	190	不明土師器
友坂(2010429)	婦中町友坂	個人住宅建築	702.1	遺跡なし
友坂(2010429)＊	婦中町友坂	車庫建築	14.6	遺跡なし
友坂(2010429)＊	婦中町下条	（仮）天神橋架替工事	65	明治石積み／江戸陶磁器、明治陶磁器
友坂(2010429)＊	婦中町下条	天神橋架替えに伴う下水管布設替え工事	49.4	近代石積み／不明土製品、中世珠洲、江戸陶磁器、明治磁器
友坂(2010429)	婦中町下条	店舗兼住宅建築	52.17	遺跡なし
友坂(2010429)	婦中町友坂	個人住宅建築	89.29	遺跡なし
富山城跡(2010442)	丸の内2丁目	倉庫建築	92.1	江戸堀（外堀）／江戸越中瀬戸、江戸陶器、江戸漆器、江戸下駄、江戸円形板、江戸曲物
富山城跡(2010442)	本丸	まちなか体験施設新築工事に伴う旧売店解体工事	275	江戸土橋、江戸～昭和堀／中世土師器、江戸陶磁器、明治陶磁器、明治石柱
富山城跡(2010442)	丸の内1丁目	事務所建築	135	江戸唐津
富山城跡(2010442)	丸の内2丁目	店舗建築	204.78	江戸井戸、江戸土坑、江戸溝、江戸ピット／江戸かわらけ、江戸越中瀬戸、江戸伊万里、江戸越前、江戸肥前系陶磁器、江戸青磁、江戸近世陶磁器
富山城跡(2010442)＊	本丸	松川第二排水区本丸地区七軒町雨水幹線築造第2工区工事	63.59	戦国～江戸堀、江戸堀／古代須恵器、古代土師器、戦国かわらけ、戦国珠洲、戦国瀬戸美濃、戦国五輪塔（空輪）、江戸かわらけ、江戸越中瀬戸、江戸瀬戸美濃
富山城跡(2010442)	丸の内2丁目	個人住宅建築	254.41	中世土師器、江戸瀬戸美濃
富山城跡(2010442)	大手町	大手モールポケットパークイベント空間施設整備工事	40	戦国溝／戦国かわらけ、江戸陶磁器
富山城跡(2010442)	丸の内3丁目	個人住宅建築	305.61	遺跡なし
富山城跡(2010442)	本丸	まちなか体験施設付属厩舎新築	279.6	江戸越中瀬戸、明治レンガ、明治瓦
千石町(2010444)	千石町5丁目	個人住宅建築	77.7	遺跡なし
千石町(2010444)	千石町5丁目	集合住宅建築	1,502.8	江戸瀬戸美濃、江戸越中瀬戸、江戸伊万里、江戸越中丸山、江戸備前、江戸土人形

遺 跡 名(遺跡No.)	所 在 地	調 査 原 因	面積(㎡)	調 査 結 果
千石町(2010444)	千石町4丁目	個人住宅建築	117.23	古代土師器
大泉(2010448)	大泉中町	個人住宅建築	196.3	遺跡なし
新庄城跡(2010449)＊	新庄町1丁目	マンホールトイレ設置工事	120	戦国～江戸堀／なし
室住池Ⅲ(2010461)	池多	ため池整備に伴う作業ヤード造成	2,936.1	古代土坑、古代溝／縄文石匙、古代須恵器、古代土師器、古代鉄滓
下邑(2010542)	婦中町小長沢字前田	個人住宅建築	673.58	遺跡なし
下邑(2010542)＊	婦中町下邑	個人住宅建築	819.05	遺跡なし
下邑(2010542)	婦中町小長沢	個人住宅建築	540.95	遺跡なし
下邑東(2010543)	婦中町羽根	個人住宅建築	255.22	江戸陶磁器
下邑東(2010543)	婦中町羽根	個人住宅建築	377.07	遺跡なし
黒瀬大屋(2010549)	黒瀬	個人住宅建築	618.87	遺跡なし
黒崎種田(2010550)	黒崎字寺田割	埋設物調査	1,905	不明土師器
黒崎種田(2010550)	黒崎字寺田割	共同住宅建築	974	古墳土師器、古代土師器、古代須恵器、中世土師器、中世珠洲
黒崎種田(2010550)	黒崎字種田割	工場建築	1,554	遺跡なし
黒崎種田(2010550)	黒崎字塚田割	倉庫兼事務所建築	2,959.81	奈良土坑、奈良溝／古墳土師器、奈良須恵器、奈良土師器、奈良暗文土器
黒崎種田(2010550)	黒崎字寺田割	集合住宅建築	974	江戸越中瀬戸
黒崎種田(2010550)	黒崎字塚田割	駐車場造成	679	遺跡なし
八日町(2010551)	八日町	個人住宅建築	272.23	遺跡なし
朝菜町鳥ノ木(2010555)	上袋	個人住宅建築	321.21	遺跡なし
朝菜町鳥ノ木(2010555)	堀川町字鳥ノ木割	個人住宅建築	338.86	遺跡なし
朝菜町鳥ノ木(2010555)	堀川町字鳥ノ木割	個人住宅建築	295.6	遺跡なし
上野井田(2010557)	上野	駐車場造成	7,000	遺跡なし
上野井田(2010557)＊	二俣新町	車庫建築	22.12	遺跡なし
山室西田(2010559)	山室	集合住宅建築	774	遺跡なし
太田中田Ⅰ(2010567)＊	太田	車庫建築	11.38	遺跡なし
新名(2010572)	石屋	土砂採取	7,729	遺跡なし
富崎(2010604)	婦中町富崎字福田	個人住宅建築	387.6	遺跡なし
千里D(2010633)	婦中町千里	分譲宅地造成	1,285	遺跡なし
千里D(2010633)	婦中町千里	店舗建築	519.03	遺跡なし
千里D(2010633)	婦中町千里	個人住宅建築	231.52	遺跡なし

遺 跡 名(遺跡No.)	所 在 地	調 査 原 因	面積(㎡)	調 査 結 果
上吉川Ⅰ(2010635)	婦中町上吉川	個人住宅建築	444.46	遺跡なし
上吉川Ⅰ(2010635)	婦中町上吉川	分譲宅地造成	961	遺跡なし
南部Ⅰ(2010636)	婦中町高日附	神社建替え	55	遺跡なし
翠尾Ⅰ(2010638)	八尾町舘本郷	事務所兼住宅建築	77	遺跡なし
翠尾Ⅱ・小倉中稲(2010639)	八尾町翠尾	個人住宅建築	265.11	遺跡なし
道場Ⅰ(2010641)	婦中町道場	個人住宅建築	842.54	遺跡なし
道場Ⅰ(2010641)	婦中町道場	個人住宅建築	169.16	遺跡なし
中名Ⅵ(2010648)	婦中町中名字北浦	集合住宅建築	913.52	遺跡なし
中名Ⅵ(2010648)	婦中町中名字北浦	個人住宅建築	380.33	遺跡なし
蜷川館跡(2010652)	蜷川	農機具格納庫建築	271.07	遺跡なし
友杉(2010653)	友杉北条田割	個人住宅増築	48	遺跡なし
友杉(2010653)	友杉字よう田割	個人住宅建築	410.55	遺跡なし
友杉(2010653)	友杉字てい田割	住宅兼店舗建築	690	遺跡なし
任海宮田(2010654)	任海	車庫建築	56.9	遺跡なし
任海宮田(2010654)＊	任海	市道任海1号線改良工事	41	遺跡なし
下熊野(2010672)	安養寺	個人住宅建築	230	不明土師器
二俣(2010674)＊	石田	市道石田7号線改良工事	110	遺跡なし
二俣(2010674)	二俣	個人住宅建築	231.85	遺跡なし
二俣(2010674)	二俣	個人住宅建築	499	遺跡なし
上野亀田(2010679)	上野	店舗兼住宅建築	576.94	遺跡なし
吉岡(2010682)	吉岡	個人住宅建築	443.39	遺跡なし
悪王寺(2010683)	若竹町6丁目	個人住宅建築	229.95	遺跡なし
若竹町(2010684)	吉岡	個人住宅建築	538	遺跡なし
辰尾(2010688)	上熊野	個人住宅建築	175.03	遺跡なし
開発覚田(2010700)	開発	個人住宅建築	352.84	遺跡なし
黒田(2010744)	八尾町黒田	個人住宅建築	576.25	遺跡なし
黒田(2010744)	八尾町黒田	個人住宅建築	150	江戸陶器
黒田(2010744)	八尾町黒田	個人住宅建築	200	遺跡なし
長山(2010749)	八尾町深谷字長山	駐車場造成	216	遺跡なし

遺 跡 名(遺跡No.)	所 在 地	調 査 原 因	面積(㎡)	調 査 結 果
滅鬼(2010750)	八尾町滅鬼	個人住宅建築	173	遺跡なし
新村(2010761)	下大久保	個人住宅建築	188.39	中世土師器
新村(2010761)＊	新村	新村第1水源外場内配管工事	117	中世土師器
新村(2010761)＊	下大久保	車庫建築	24.49	遺跡なし
塩(2010767)	塩	個人住宅建築	60	遺跡なし
中布目(2010771)＊	月岡西緑町	車庫建築	21.97	遺跡なし
大井(2010773)	中布目	個人住宅建築	447.61	遺跡なし
大井(2010773)＊	大井	市道上栄牧田線外2線改良工事	37	遺跡なし
万開(2010783)	万願寺	車庫建築	44.6	遺跡なし
春日(2010943)＊	春日地内	下水管布設工事	95	遺跡なし
庵谷・片掛銀山(2011020)＊	庵谷	市道庵谷片掛線法面改良第1工区	244	遺跡なし
庵谷・片掛銀山(2011020)＊	片掛	市道庵谷片掛線法面改良第2工区	242	遺跡なし
富山城下町遺跡主要部(2011048)	総曲輪4丁目	共同住宅建築	742.38	江戸越中瀬戸、江戸瀬戸美濃、江戸伊万里、江戸唐津
計152件(*31)			188,702.36	
28年度 補遺(3月)				
大村(2010008)	海岸通字古城跡割	個人住宅建築	659	不明土師器
東老田Ⅰ(2010085)	東老田	資材置場造成	1,000	遺跡なし
犬島(2010243)	豊丘町	個人住宅建築	223.6	中世白磁、不明土師器
中冨居(2010251)	中冨居	盛土造成工事	174	遺跡なし
水橋田伏(2010283)	水橋田伏	工場建築	3,761	古代須恵器
大峪城跡(2010439)＊	五福	旧五福小学校屋外遊具撤去業務	5,444	遺跡なし
富山城跡(2010442)＊	総曲輪4丁目	道路工事に伴う埋設管路移設	60	遺跡なし
富山城跡(2010442)＊	総曲輪4丁目 丸の内3丁目	総曲輪四丁目地区下水管改築工	273.2	戦国溝、不明ピット／戦国かわらけ
黒瀬大屋(2010549)	黒瀬	分譲宅地造成	15,000	平安竪穴住居、平安柱穴、平安土坑、平安溝／平安土師器、平安須恵器、古代土錘、中世青磁
上野井田(2010557)	二俣	店舗建築	1,321.55	縄文（晩）縄文土器
吉岡(2010682)＊	若竹町3丁目	鋳鉄管閉塞工事	8	遺跡なし
布市北(2010692)	布市	個人住宅建築	495.8	不明土師器
塩(2010767)	塩字内割	駐車場造成	291	遺跡なし
大井(2010773)	大井	農業用物置建築	90	縄文土器

遺 跡 名(遺跡No.)	所 在 地	調 査 原 因	面積(㎡)	調 査 結 果
中滝山(2010822)	中滝	送電鉄塔建築	288	遺跡なし
春日(2010943)＊	笹津	笹津開閉所送電線絶縁破壊検出装置の取替	58	縄文(中)土坑／縄文(中)縄文土器
富山城下町遺跡主要部(2011048)＊	総曲輪3丁目	総曲輪三丁目再開発に伴う仮設電気の埋設配管工事	3	明治土間／江戸陶磁器、明治陶磁器

Ⅱ　遺跡地図管理

富山市内の史跡・埋蔵文化財包蔵地の総数は 1,052 ヶ所、総面積は約 73.47ｋ㎡です（平成 30 年 2 月末現在）。これは市域 1,241.77ｋ㎡の約 5.92%にあたります。史跡・埋蔵文化財包蔵地は富山市遺跡地図に搭載され、埋蔵文化財センター窓口のほか、インターネットでも閲覧することができます。

(1) 平成 29 年度の埋蔵文化財包蔵地の範囲変更等（平成 29 年 3 月～平成 30 年 2 月）

No.	遺跡名（遺跡番号）	面積（㎡）	変更内容
1	西金屋高山窯跡（2011055）	2,276	新規追加
2	茗ヶ原遺跡（2011056）	1,765	新規追加

(2) 遺跡地図のインターネット公開

遺跡地図は富山市ホームページで公開し、史跡・埋蔵文化財包蔵地の範囲、名称・所在地等の概要が閲覧できます。建築・土木工事、各種開発、不動産売買の手続き等の参考にしてください。

閲覧は、富山市ホームページのトップページから、「インフォマップとやま」→「まちづくり情報マップ」→「遺跡地図」の順に進んでください。閲覧にあたっては利用条件をご確認ください。

※URL：http://www2.wagmap.jp/toyama/top/

遺跡地図のパソコン画面

（遺跡地図はデータを随時更新していますので、ご確認ください）

Ⅲ　史跡の保護・管理

１　北代縄文広場

(1) 管理

①管理運営委託等

Ａ. 管理運営

地元の長岡地区自治振興会に広場の管理運営を委託しました。自治振興会が配置した管理人と富山市北代縄文広場ボランティアの会の会員が常駐し、広場の管理や展示解説、縄文土器づくり（野焼きを含む）をはじめとした体験学習の手伝いなどを行いました。

Ｂ. 環境整備

竪穴住居の燻し（防虫・湿気対策）、広場の草刈、樹木剪定などは公益社団法人富山市シルバー人材センターに委託しました。この他、機械除草、樹木伐採、広場外灯修繕、北代縄文館体験工房照明器具修繕・展示室空調機ダクト修繕・管理室空調機修繕・男子トイレ小便器修繕等を行いました。

②社会に学ぶ「14 歳の挑戦」

広場管理運営補助（復元建物部分補修・縄文土器づくり用粘土の調整・広場解説案内・敷地内の除草・清掃等）※富山市北代縄文広場ボランティアの会等による指導

奥田中学校（3 名）　平成 29 年 6 月 21・22 日

呉羽中学校（4 名）　平成 29 年 7 月 4～7 日

③その他

「第 12 回越中富山ふるさとチャレンジスタンプラリー」（越中富山ふるさとチャレンジ実行委員会事務局）のスタンプラリーに協力しました。

平成 29 年 4 月 29 日～10 月 15 日

(2) ミニ企画展

	テーマ	期間	主要展示品	来場者数	展示解説会
1	とやまの石器研究最前線！	平成29年6月6日～平成29年12月17日	史跡北代遺跡出土石器（後期旧石器時代・縄文時代前期）、小竹貝塚出土石器（縄文時代前期）、富山市科学博物館所蔵岩石・鉱物標本	5,676人	平成29年6月10日10名参加
2	縄文人の食生活	平成29年12月19日～平成30年5月27日（予定）	小竹貝塚出土骨（魚類・海棲哺乳類）・貝・骨角器	1,221人（2月末）	平成29年12月23日30名参加

(3) 普及行事、講座

①北代縄文考古楽講座

平成 29 年 7 月 8 日　第 1 回講座「北代縄文考古楽講座への誘(いざな)い」

平成 29 年 9 月 30 日　第 2 回講座「気候変動と縄文人」

平成 29 年 10 月 14 日　第 3 回講座「動物と縄文人」

平成 29 年 12 月 16 日　第 4 回講座「気候変動に直面した地域社会の応答－弥生時代の事例－」

計 150 人参加

②みんなで縄文時代を学ぼう（悠久の森 2017 連携事業）

平成 29 年 8 月 2 日、8 月 6 日、8 月 8 日、8 月 23 日　計 61 人参加

③ワークショップ“石器石材の特性を知ろう”

（北代縄文館ミニ企画展「とやまの石器研究最前線！」関連行事）

平成 29 年 8 月 26 日　40 人参加

講師　増渕佳子主任学芸員（富山市科学博物館）

みんなで縄文時代を学ぼう

④記念講演会「完全非破壊分析による石器石材研究の最前線－富山市小竹貝塚出土石器を中心に－」（北代縄文館ミニ企画展「とやまの石器研究最前線！」関連行事）

平成 29 年 11 月 18 日　40 人参加

場所　富山市立長岡公民館研修室、講演会後に北代縄文館で展示解説

講師　飯塚義之博士（台湾　中央研究院地球科学研究所）

⑤文化の秋の縄文土器づくり

平成 29 年 10 月 6 日　　第 1 回講座　有孔鍔付土器の成形

平成 29 年 10 月 12 日　第 2 回講座　有孔鍔付土器の施文・研磨

平成 29 年 10 月 31 日　第 3 回講座　有孔鍔付土器の野焼き

平成 29 年 11 月 1 日　　第 4 回講座　有孔鍔付土器への赤色顔料塗布

各回 5 人参加

講師　近藤顕子埋蔵文化財センター所長代理

（協力　富山市北代縄文広場ボランティアの会）

⑥文化の秋の縄文土器づくり作品展 2017

平成 29 年 11 月 7 日～19 日　北代縄文館展示室　来場者数 371 名

(4) 長岡地区等行事

①長岡地区自治振興会

縄文朝市（地元野菜等の販売）　平成 29 年 5 月～12 月の土曜日（全 11 回）

②長岡地区ふるさとづくり推進協議会

縄文冬まつり（世代間交流行事）　平成 30 年 1 月 20 日

③北代三区町内会

平成 29 年度北代三区納涼大会（世代間交流行事）　平成 29 年 8 月 5 日

(5) 来場者数

年度	個人	団体	合計	土器づくり体験	縄文グッズづくり体験	縄文コースターづくり体験
27	9,216 人	1,286 人	10,502 人	439 人	144 人	111 人
28	9,324 人	760 人	10,084 人	270 人	103 人	155 人
29（30 年 2 月末現在）	7,954 人	769 人	8,723 人	125 人	167 人	84 人

（参考）平成 11 年 4 月～30 年 2 月末の来場者数累計　174,958 人

２　安田城跡歴史の広場

(1) 管理

①管理

管理人１名が常駐し、資料館及び広場の管理や来場者への案内・解説を行いました。

②環境整備

清掃業務及び広場の環境整備（芝刈・樹木剪定・除草・睡蓮間引き）は、公益社団法人富山市シルバー人材センター及び財団法人富山市婦中公園緑地管理公社に委託しました。

そのほか、資料館便所の給水管の取替や広場南側のシラカシの剪定等を行いました。

資料館便所給水管取替業務完了状況

③暴風被害対応

平成 29 年 10 月 22 日の台風 21 号による被害で、資料館周囲の木製柵４本が風圧で折損等したほか、本丸東側の樹木の太枝が折れました。事故防止のため、同年 11 月に木製柵の修繕及び、折れ枝の除去を行いました。

木製柵修繕完了状況

④その他

「第 12 回越中富山ふるさとチャレンジスタンプラリー」（越中富山ふるさとチャレンジ実行委員会事務局）のスタンプラリー（平成 29 年４月 29 日～10 月 15 日）に協力しました。

(2) ミニ企画展

	テーマ	期間	主要展示品	来場者数	展示解説会
1	秀吉の越中出陣前後の婦負－白鳥城・安田城・大峪城・安養坊砦、そして富山城－	平成30年1月23日～7月1日	白鳥城跡出土土器・陶磁器・碁石・砥石・鉄器・鉄滓・模型、安田城跡出土土器・模型、富山城跡出土土器・鍛冶関連遺物・鋳造関連遺物	810人（平成30年2月末現在）	平成30年1月27日 10名参加

(3) 普及行事、講座

①夏休み子ども歴史講座「秀吉と成政の戦いを見つめた城 安田城 ～学んだ歴史をレポートしよう～」

平成 29 年７月 28 日　50 人参加

講師：堀泰洋教諭（神通碧小学校）、舟川宗吾教諭（東部小学校）、前田雄一郎教諭（八尾小学校）、指導補助ボランティア：角田睦美氏、木本眞知子氏、杉森慶子氏

夏休み子ども歴史講座

②ミニ企画展関連講座

「白鳥城は秀吉の本陣か？～「佐々攻め」を捉えなおす～」

平成 30 年３月 10 日　●人参加

講師：萩原大輔主任学芸員（富山市郷土博物館）

(4) 安田城跡再整備準備検討事業

安田城跡再整備準備検討会議の開催

第１回会議　平成 29 年９月 12 日　婦中安田城跡歴史の広場・富山市朝日地区センター

第２回会議　平成 30 年２月 21 日　婦中行政サービスセンター

(5) 朝日地区等行事

①第 25 回安田城月見の宴（安田城月見の宴実行委員会）

平成 29 年 8 月 26 日

②朝日地区観光協会による睡蓮間引き作業

平成 29 年 7 月 30 日

朝日地区観光協会の皆様が、堀に繁茂している睡蓮の間引き作業を実施してくださいました。

(6) 来場者数

年度	個人	団体	合計
27	15,692 人	2,263 人	17,955 人
28	15,592 人	2,159 人	17,751 人
29(30 年 2 月末現在)	17,028 人	1,774 人	18,802 人

（参考）平成 5～30 年 2 月末の累計来場者数　230,084 人

3　史跡王塚・千坊山遺跡群

(1) 維持・管理

①樹木伐採・倒木処理（千坊山遺跡）

暴風被害による事故を防止するため、遺跡の北東斜面にある樹木 55 本（杉 28 本、広葉樹 6 本、雑木 21 本）を伐採しました。また斜面上の倒木の転落による事故を防止するため、遺跡北東斜面（対象面積 150 ㎡）にある倒木の搬出を行いました。

樹木伐採業務完了状況

②暴風被害対応（勅使塚古墳）

平成 29 年度に発生した暴風による倒木の伐採を、富山市農林事務所農地林務課が行いました。

③除草管理

・千坊山遺跡・六治古塚墳墓・向野塚墳墓・勅使塚古墳（市有地約 60,975 ㎡、6～10 月）

公益社団法人富山市シルバー人材センターへの業務委託により実施。

・千坊山遺跡内古里小学校旧運動場（市有地約 6,300 ㎡）

古里小学校ＰＴＡのボランティアによる実施。

4　史跡等の巡視及び管理

(1) 文化財パトロール

富山県が委嘱した文化財保護指導委員による定期的な史跡、埋蔵文化財等の巡視

北代遺跡、直坂遺跡、王塚・千坊山遺跡群、安田城跡、金草第一古窯跡、東黒牧上野遺跡、猪谷関跡、五百羅漢、面白寺跡、中地山城跡及び殿様馬乗石、上滝不動尊境内、越中丸山焼陶窯跡、題目塔と道標、五輪塔古石塔群

(2) 除草、環境整備

堀Ｉ遺跡（6・8・10 月）、友坂二重不整合（6・8 月）、押上遺跡・栗山塚（6・8 月）、古沢塚山古墳（6 月）、境野新遺跡（7 月）

公益社団法人富山市シルバー人材センターへの業務委託により実施。

Ⅳ　展示・普及

１　発掘速報展

(1) 発掘速報展 2017「富山城 外堀を掘る」

会場：富山市考古資料館
期間：平成 29 年 4 月 26 日～8 月 21 日
入館者数：1,441 人
展示解説会：平成 29 年 5 月 2 日（堀内主査学芸員）参加人数 20 人
展示遺跡：富山城跡
主要展示品：かわらけ、瀬戸美濃、織部、越中瀬戸、唐津、伊万里、青磁、白磁、青花、坩堝、とりべ、亀甲地双鳥鏡、鶴亀燭台、箸、しゃもじ、漆器椀、下駄、薬袋版木、売薬行商鑑札など

展示状況

展示解説会の様子

(2) 発掘速報展 2017 part2「富山城下町を掘る－弥生土器から戦前のからつや－」

会場：安田城跡資料館
期間：平成 29 年 7 月 25 日～平成 30 年 1 月 14 日
入館者数：7,484 人
展示解説会：平成 29 年 9 月 15 日（鹿島主査学芸員）　参加人数 15 名
特別講演会：佐々木達夫金沢大学名誉教授「城下町の陶磁器と生活」
　平成 29 年 10 月 15 日　参加人数 20 名（講演概要は 31～36p に掲載しています）
展示遺跡：富山城下町遺跡主要部
主要展示品：弥生土器、須恵器、土師器、中世土師器、珠洲、越前、瀬戸美濃、唐津、信楽、萩、瀬戸美濃、肥前、酒盃、硯、茶臼、幻の東京オリンピック記念盃など

展示状況

展示解説会の様子

２　兼務関係施設の企画展

(1) 富山市考古資料館（民俗民芸村所管：小林主査学芸員・細辻主査学芸員兼務）

テーマ等	期間	主要展示品・関連行事等	来館者等
企画展「縄文人とふしぎな道具」	平成29年8月25日～平成30年4月8日（220日間）	開ケ丘狐谷Ⅲ遺跡の土偶、杉谷遺跡の三角とう形土製品、杉谷H遺跡の動物状土製品、妙川寺遺跡の石棒、史跡北代遺跡のタカラ貝形土製品・岩版、伝水橋舘町出土の遮光器土偶(富山市指定文化財)など	1,753 人(2月末現在)
	平成29年9月2日	展示解説会（小林主査学芸員）	12 人
	平成29年9月30日	記念講演会「土偶のヒミツ－隠されたその正体を探る－」公益財団法人滋賀県文化財保護協会調査課安土分室分室長の瀬口眞司氏による講演会	35 人
	平成29年11月3日	展示解説会（小林主査学芸員）	10 人
	平成29年12月9日	考古楽講座「縄文の道具箱」民俗民芸村解説サポーター森喜美氏による講座	30 人

遮光器土偶

展示解説会の様子

３　講座

(1) 富山市民大学（富山市民学習センター主催）

①富山の遺跡物語

回	講師	学習題	開催月日
1	中本八穂専門学芸員	旧石器時代から縄文時代へ	5 月 19 日
2	堀内大介主査学芸員	呉羽丘陵の縄文時代	6 月 2 日
3	小黒智久主査学芸員	【現地学習】北代縄文広場	6 月 16 日
4	細辻嘉門主査学芸員	墳墓の変化からみた富山の古墳時代	7 月 7 日
5	大野英子主査学芸員	弥生人のくらしと文化	7 月 21 日
6	鹿島昌也主査学芸員	古代の窯業生産－須恵器・瓦など－	9 月 1 日

7	堀沢祐一所長	古代のまじない	9 月 15 日
8	近藤顕子所長代理	中世　鋳物生産の村	9 月 29 日
9	鹿島昌也主査学芸員	【現地学習】安田城跡資料館　発掘速報展見学	10 月 6 日
10	野垣好史主査学芸員	発掘調査から見た富山城・城下町	10 月 20 日

②郷土の歴史

1	堀沢祐一所長	弥生・古墳時代のまじない	4 月 27 日

(2)市役所出前講座

遺跡からみた富山の歴史

回	講師	演題	主催者・会場	参加者数	月日
1	近藤顕子 所長代理	遺跡からみた富山の歴史－富山市内遺跡の発掘調査成果－	堀川校下自治振興会／呉羽ハイツ研修室	62	7月 8 日
2	堀沢祐一 所長	遺跡からみた富山の歴史－古代越中国のまじないと西田地方校区の年中行事と石仏たち－	西田地方校下ふるさとづくり推進協議会／西田地方公民館	45	7月 14 日
3	大野英子 主査学芸員	遺跡からみた富山の歴史－千坊山遺跡について－	古里校区ふるさとづくり推進協議会／古里公民館	44	7月 25 日
4	野垣好史 主査学芸員	遺跡からみた富山の歴史－富山城・城下町の発掘調査－	JAM 富山シニアクラブ／ゆーとりあ越中	34	9月 24 日
5	鹿島昌也 主査学芸員	遺跡からみた富山の歴史	富山市小学校教育研究会社会科部会／呉羽小学校	86	11月 20 日
6	鹿島昌也 主査学芸員	遺跡からみた富山の歴史・城下町の歴史	富山県食料品卸問屋連盟・富山市駐車場協会／富山電気ビルディング	12	2 月 2 日

(3)北代縄文考古楽講座（会場：北代縄文広場　北代縄文館体験工房）

回	講師	演題	参加者数	月日
1	小黒智久主査学芸員	北代縄文考古楽講座への誘い	40	7 月 8 日
2	小黒智久主査学芸員	気候変動と縄文人	40	9 月 30 日
3	納屋内高史嘱託学芸員 南部久男科学博物館専門官	動物と縄文人	35	10 月 14 日
4	小黒智久主査学芸員	気候変動に直面した地域社会の応答 －弥生時代の事例－	40	12 月 16 日

(4)その他講座

①上市町ふるさと町民学園　「幻の東京オリンピック」（発掘速報展 2017part2 展示解説）
　鹿島主査学芸員　平成 29 年 9 月 26・27 日　安田城跡資料館　120 人
②南砺市市民大学後期講座「ふるさとを巡る　富山藩の旧跡と富山城を攻める」
　富山城跡の石垣の解説　野垣主査学芸員　平成 29 年 10 月 12 日　富山城址公園　20 人

4　その他

(1)社会に学ぶ　14歳の挑戦

奥田中学校3名　平成29年6月19日～6月23日

［体験内容］　西金屋高山窯跡出土品整理、境野新遺跡公園排水溝清掃、北代縄文広場竪穴住居補修・広場管理、古沢塚山古墳草刈

(2)マスコミ取材対応

①富山シティエフエム「ものしり富山学」－「富山市北代縄文広場」　平成29年5月1日～5日（各日とも2回放送）　小黒主査学芸員

②KNBラジオ「でるラジ」－「先生！勉強になります！！」コーナー
考古資料館の発掘速報展について　平成29年4月27日　堀内主査学芸員
安田城跡資料館の発掘速報展Part2について　平成29年9月14日　鹿島主査学芸員
考古資料館の企画展について　平成29年9月28日　小林主査学芸員

③NHK総合テレビ「歴史秘話ヒストリアーニッポン登山初め　高峰を目指した人々の物」
青江コレクションの天狗平採集の石鏃　平成29年11月24日　野垣主査学芸員

④NHK富山放送局「「ニュース富山人・富山の宝」コーナーー富山城石垣」　平成30年1月10日　野垣主査学芸員

⑤上婦負ケーブルテレビ「かみねいアワー」－「安田城跡資料館ミニ企画展『秀吉の越中出陣前後の婦負－白鳥城・安田城・大峪城・安養坊砦、そして富山城－』展示解説会」　平成30年2月17日～23日（各日とも4回放映）　小黒主査学芸員

Ⅴ　刊行物

1　発掘調査報告書

No.89　富山城下町遺跡主要部発掘調査報告書(2017,6)
No.90　富山市内遺跡発掘調査概要ⅩⅨ(2018,3)
No.91　富山城跡発掘調査報告書(2018,3)
No.92　富山城跡発掘調査報告書(2018,3)
No.93　富山城跡（総曲輪小）発掘調査報告書(2018,3)
No.94　黒瀬大屋遺跡発掘調査報告書(2018,3)

2　PR誌・展示図録等

富山市の遺跡物語No.19　富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報（2018,3）
北代縄文通信　第45号（2017,10）、第46号（2018,3）

Ⅵ　活用

1　出土品貸出

	貸出先	展示名	展示期間	資料名
1	富山市郷土博物館	常設展　コーナー展示「リアルタイム富山城」	29,4,1～30,3,31	富山城下町主要部出土動物遺存体3箱、木製品19点
2	富山市郷土博物館	常設展　コーナー展示「各地の中世城館出土品」	29,4,1～29,9,10	新庄城跡出土かわらけ等
3	富山市郷土博物館	特別展「謙信　越中出馬」	29,9,16～29,11,12	新庄城跡出土かわらけ等

4	高岡市美術館	大伴家持生誕 1300 年記念「家持の時代」展	29,9,22～29,10,22	総曲輪遺跡出土墨書土器「宅持」1 点
5	富山市郷土博物館	常設展　コーナー展示「各地の中世城館出土品」	29,11,30～30,3,31	新庄城跡出土かわらけ等
6	富山市売薬資料館	常設展での展示	永年	富山城跡出土の売薬関連木製品 2 点

2　写真等資料掲載

(1) 白鳥城跡発掘調査検出遺構３点　佐伯哲也『図説日本の城郭シリーズ５　織田 vs 上杉　北陸合戦と城郭』戎光祥出版株式会社（平成 29 年 5 月刊行）

(2) 栃谷南遺跡出土須恵器杯・蓋、室住池Ｖ遺跡出土須恵器　経沢信弘『古代越中の万葉料理』桂書房（平成 29 年 5 月刊行）

3　資料調査・見学等

(1) 平成 29 年 6 月 22 日～（2 ヶ年継続調査の予定）　日本大学生物資源科学部宮野則彦教授
平成 28 年度まで 7 ヶ年継続事業としての再整備を終えた復原建物の改築／改修効果を検証するための建物内および外気の温湿度環境測定調査

(2) 平成 29 年 8 月 21 日～平成 30 年 3 月 30 日　弘前大学人文社会科学部上條信彦准教授　小出城跡・西二俣遺跡出土米塊各 1 点、イネの形態・ＤＮＡ分析（分析のため資料貸出）

(3) 平成 29 年 10 月 10 日　東京大学工学部学生二谷輝郎　富山市街地に残る水系基盤（背割水路の火防水路）の調査

(4) 平成 29 年 10～11 月　富山大学学生泉田侑希　栃谷南遺跡出土瓦

(5) 平成 29 年 10～11 月　富山大学学生二口頌之　富山城下町遺跡出土陶磁器

(6) 平成 29 年 11 月 9 日　東京芸術大学水本和美非常勤講師　富山城跡・城下町遺跡出土陶磁器

(7) 平成 29 年 11 月 13 日～16 日　台湾中央研究院地球科学研究所飯塚義之博士　史跡北代遺跡出土石器・富山市考古資料館収蔵栗山コレクション内石器等の携行型ハンドヘルド蛍光エックス線分析装置を用いた石材調査

(8) 平成 29 年 12 月 5 日　金沢大学学生田中小菊　富山城下町遺跡ほか出土の土人形

(9) 平成 30 年 3 月 15 日（公財）千葉県教育振興財団文化財センター橋本勝雄　向野池遺跡、小長沢遺跡出土の旧石器資料調査

Ⅶ　調査研究

1　調査協力・共同研究

(1) 石川県金沢城調査研究所　金沢城関連城郭等情報連絡会　平成 29 年 7 月 20 日
野垣好史主査学芸員　報告「富山城・城下町の 2017 年度調査等予定について」

(2) (公財)石川県埋蔵文化財センター　環日本海文化交流史調査研究事業
平成 29 年 9 月 27 日　研究協力者会議　堀内大介主査学芸員
平成 30 年 2 月 23 日、24 日　研究集会「近世成立期の土器・陶磁器様相 －カワラケを中心に－」報告「富山県」、研究協力者会議　堀内大介主査学芸員

2　論文・報告・紹介

富山市内の遺跡に関連するものを含みます

(1) 関係職員等

小黒智久　2017,5 「積石塚のない地域 4　北陸」『積石塚大全』　雄山閣

小黒智久　2017,9「北陸北東部の古墳出現期社会と地域間関係、気候変動」『古代文化』第 69 巻第 2 号　（公財）古代学協会

小黒智久　2018,3「境野新遺跡の再評価と古沢塚山古墳の出現」『富山市の遺跡物語』第 19 号　富山市教育委員会埋蔵文化財センター

鹿島昌也ほか　2017.6「富山県地方史研究の動向」『信濃』第 809 号　信濃史学会

鹿島昌也・宮田康之　2018,3「富山藩家老富田氏下屋敷跡出土恵比須土面について」『富山市の遺跡物語』第 19 号　富山市教育委員会埋蔵文化財センター

小林高範 2018.3a「薬師岳、有峰などの奉納剣について」『大山の歴史と民俗』第 21 号 大山歴史民俗研究会

小林高範　2018.3b「富山県内の遮光器土偶」『富山市考古資料館紀要』第 37 号　富山市考古資料館

酒井英男・泉　吉紀・名古屋岳秀・野垣好史・卜部厚志　2017,10「考古地磁気による噴砂（古地震）の年代推定」『日本情報考古学会講演論文集』Vol.19 日本情報考古学会

納屋内高史　2018,3 「小竹貝塚における集落変遷の再検討－貝層と墓域の変遷を中心として－」『富山市考古資料館紀要』第 37 号　富山市考古資料館

藤田富士夫　2017,5「縄文時代の太陰暦「数字」を有する遺物について」『第 83 回総会 研究発表要旨』（一社）日本考古学協会

藤田富士夫　2017,6「越中国式内社『神渡神社』と『神済』の所在について」『敬和学園大学人文社会科学研究所年報』第 15 号

藤田富士夫　2017,8「『日出ずる処』の二至二分の日の出」『明日香』第 38 号　明日香村文化協会

藤田富士夫　2017, 9「鹿嶋神社とその神域」・「古代越中・越後の国境と浜山玉つくり遺跡」『第 3 回翡翠フォーラム in 朝日町　古代人の心性と玉文化』朝日町教育委員会・朝日町中央公民館・野外調査研究会

藤田富士夫　2017,11「越中国式内社『神渡神社』を実景から探る」『郷土研究を志す人へ』富山県郷土史会　桂書房

藤田富士夫　2017, 12「『万葉集』の「神之渡」を実景から探る」『考古学論究』第 19 号立正大学考古学会

古川知明　2017.3「常願寺川石工金屋弥右衛門について」『富山史壇』第 182 号　越中史壇会

古川知明　2017.8a「富山市猪谷山宝樹寺境内石造物」『富山の石造物調査報告書Ⅰ』富山石文化研究所

古川知明　2017.8b「富山市布尻神社境内石造物」『富山の石造物調査報告書Ⅰ』富山石文化研究所

古川知明　2017.8c「富山市呉羽山常夜灯」『富山の石造物調査報告書Ⅰ』富山石文化研究所

古川知明　2017.8d「近世石造物に見る吉祥文様について」『富山の石造物調査報告書Ⅰ』富山石文化研究所

古川知明　2017.8e『越中真言宗の古刹 医王山東薬寺の歴史』東薬寺

古川知明　2017.8f「神通川の「わたり町」について」『北陸都市史学会会誌』第 23 号　北陸都市史学会

古川知明　2017.9a「富山町周辺における北陸街道一里塚の検証」『富山史壇』第 183 号　越中史壇会

古川知明　2017.9b『井波山石切場関連調査報告書』富山石文化研究所

古川知明　2017.12a「飛騨街道一里塚の検証」『富山史壇』第 184 号　越中史壇会

古川知明　2017.12b「富山市猪谷山宝樹寺住職墓」『富山の石造物調査報告書Ⅱ』富山石文化研究所

古川知明　2017.12c「富山市婦中町安田共同墓地宝篋印塔」」『富山の石造物調査報告書Ⅱ』富山石文化研究所

古川知明　2017.12d「富山市月岡山円城院宝篋印塔」『富山の石造物調査報告書Ⅱ』富山石文化研究所

古川知明　2017.12e「富山市上滝不動寺宝篋印塔」『富山の石造物調査報告書Ⅱ』富山石文化研究所

古川知明　2017.12f「宝篋印塔における宝篋印塔陀羅尼経文引用について」『富山の石造物調査報告書Ⅱ』富山石文化研究所

古川知明　2017.12g「富山藩主前田家墓所長岡御廟所石造物の調達について」『論集富山城研究』富山城研究会

古川知明　2017.12h「富山藩磯部御庭について」『論集富山城研究』富山城研究会

堀内大介　2018.2「富山県（富山城跡・富山城下町遺跡主要部）の様相」『近世成立期の土器・陶磁器様相－カワラケを中心に－ 発表要旨・資料集』（公財）石川県埋蔵文化財センター

堀沢祐一　2017.12「平成二十九年度研究発表大会発表要旨 越中国からみた律令祭祀遺物」『富山史壇』第 184 号　越中史壇会

堀沢祐一　2018.3「諸国での人面墨書土器出土状況について」『富山市の遺跡物語』第 19 号　富山市教育委員会埋蔵文化財センター

宮田康之　2018,3「生産地と消費地における越中丸山焼の火鉢について」『富山市の遺跡物語』第 19 号　富山市教育委員会埋蔵文化財センター

(2)市内遺跡を取り扱ったもの

大野淳也　2017.3「富山県の土偶（2015 年度)」『第 14 回土偶研究会 青森県大会資料』土偶研究会

佐々木達夫　2018.3「富山城下町から出土した陶磁器と生活－発掘速報展 2017part2「富山城下町遺跡を掘る」特別講演会から－」『富山市の遺跡物語』第 19 号　富山市教育委員会埋蔵文化財センター

新宅輝久　2018.3「越中国内の古代・中世官道を考える－近世街道から遡って－」『大境』第 37 号　富山考古学会

神保孝造　2017.3「ほ場整備事業の試掘調査－富山市田伏・佐野竹遺跡の調査」『埋文とやま』VOL.140　富山県埋蔵文化財センター

高岡　徹　2017.11「私の城館研究－歴史的環境を残すために－」『郷土研究を志す人へ』富山県郷土史会　桂書房

高橋克壽　2018.3「富山平野の古墳について」『富山市考古資料館紀要』第 37 号　富山市考古資料館

高橋浩二　2017.12「杉谷４号墳、６号墳の調査」『埋文とやま』VOL.141 富山県埋蔵文化財センター

高柳由紀子　2017.12「ほ場整備事業の発掘調査－横越水窪遺跡、浜黒崎野田・平榎遺跡、平榎亀田遺跡の調査」『埋文とやま』VOL.140 富山県埋蔵文化財センター

滝川重徳　2017.12「「富山藩磯部御庭」と金沢城関連庭園について」『論集富山城研究』富山城研究会

次山　淳　2018.3「杉谷 4 号墳と古墳出現前夜の神通川下流域」『富山市考古資料館紀要』第 37 号　富山市考古資料館

長　秋雄　2017,12「帯磁率ヒストグラムによる富山城石垣と高岡城石垣の採石地推定」『論集富山城研究』富山城研究会

長　秋雄　2017,12「富山藩主前田家墓所長岡御廟所石造物使用石材の採石地比定」『論集富山城研究』富山城研究会

経沢信弘　2017.5「食材と器」『古代越中の万葉料理』桂書房

西村盛一　2017.11「「三角壔形土製品」考」『郷土研究を志す人へ』富山県郷土史会　桂書房

萩原大輔　2017.12「幕末期富山藩の山岸村瓦焼場に関するノート」『論集富山城研究』富山城研究会

３　講演・研究発表

富山市内の遺跡に関連するものを含みます

納屋内高史「出土動物遺存体から見た近世富山城下町の食生活」『シンポジウム江戸藩邸と国元・金沢の食生活－動物考古学の研究成果から』　平成 29 年 5 月 13 日　東京大学農学生命科学研究科・中島薫一郎記念ホール

藤田富士夫「太朝臣安万侶と『古事記』」古事記を読む会　平成 29 年 4 月 2 日　豊栄稲荷神社

藤田富士夫「翡翠の勾玉はどこへ行ったか」下新川郡公民館連絡協議会職員研修会　平成 29 年 5 月 13 日　旧なないろＫＡＮ研修室

藤田富士夫「呉羽山丘陵と北代遺跡」呉羽山観光協会記念講演会　平成 29 年 5 月 23 日　呉羽ハイツ

藤田富士夫「縄文時代の太陰暦「数字」を有する遺物について」第 83 回総会研究発表　（一社）日本考古学協会　平成 29 年 5 月 28 日　大正大学

藤田富士夫「三輪山の祭祀をめぐって」古事記を読む会　平成 29 年 9 月 3 日　豊栄稲荷神社

藤田富士夫「鹿嶋神社とその神域」・「古代越中・越後の国境と浜山玉つくり遺跡」第 3 回翡翠フォーラム in 朝日町　朝日町教育委員会・朝日町中央公民館・野外調査研究会　平成 29 年 9 月 23・24 日　あさひコミュニティホールアゼリア

藤田富士夫「縄文人の高度な知恵と能力」歴史講演会　高瀬遺跡保存協会・南砺市埋蔵文化財センター　平成 29 年 11 月 4 日　南砺市高瀬公民館

藤田富士夫「北代の縄文人・月を数える」公民館ふるさと講座　長岡地区ふるさとづくり推進協議会　平成 29 年 12 月 6 日　長岡公民館

藤田富士夫「舟橋村におけるジオツアーモデル研修」（一社）立山黒部ジオパーク協会　平成 29 年 12 月 23 日　舟橋村竹内天神堂古墳周辺現地学習

藤田富士夫「とやまの考古学を築いた先覚者たち」県民考古学講座　平成 30 年 2 月 4 日　富山県埋蔵文化財センター会議室

藤田富士夫「上市町の遺跡」上市町観光ボランティア研修会　平成 30 年 3 月 15 日　上市町働く婦人の家

堀内大介「富山城跡三ノ丸の調査～中世富山城以前の富山」北陸都市史学会　平成 29 年 8 月 6 日　石川県政記念館しいのき迎賓館 3 階セミナールームＢ

堀沢祐一　「越中国から見た律令祭祀遺物」越中史壇会研究発表大会　平成 29 年 8 月 20 日　富山県民会館 611 号室

Ⅷ　研修等参加

1　**平成 29 年度記念物保護行政担当者会議**　大野主査学芸員　文部科学省講堂（東京都）平成 29 年 7 月 5～6 日

2　**平成 29 年度全史協北信越地区協議会研修会**　小黒主査学芸員　敦賀市　平成 29 年 7 月 13 日～7 月 14 日

3　**平成 29 年度文化財担当者専門研修「出土品管理・活用課程」**　中本専門学芸員　独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所　平成 29 年 7 月 10 日～7 月 14 日

4　**第 38 回日本貿易陶磁研究会**　鹿島主査学芸員　立教大学池袋キャンパス　平成 29 年 9 月 16 日～9 月 17 日

5　**平成 29 年埋蔵文化財発掘調査専門職員等研修会**　小林主査学芸員、鹿島主査学芸員、小黒主査学芸員、細辻主査学芸員　富山県埋蔵文化財センター　平成 30 年 2 月 22 日

Ⅸ　寄贈

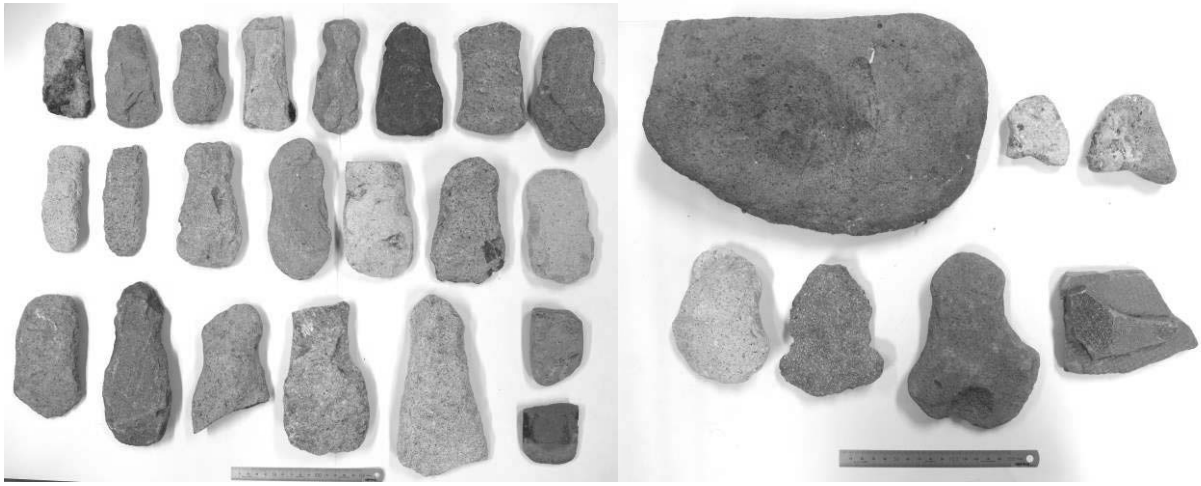
1　福川正俊氏寄贈品

考古資料 29 点

（平成 29 年 11 月 6 日に受入）

富山市八尾町福島在住の福川正俊氏より、富山市蔵王神社遺跡にて採集された石器類（縄文時代中期と思われる打製石斧 20 点、打製石斧未製品 3 点、磨製石斧 2 点、石皿 1 点、剥片類 2 点）、須恵器 1 点（奈良時代）の寄贈を受けました。

（小林高範）



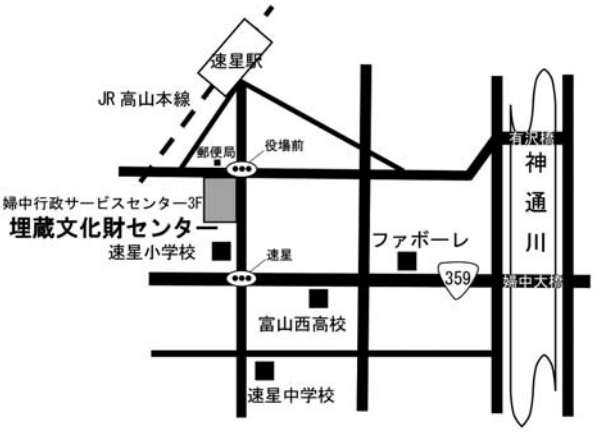
寄贈品（縄文時代の石器類　奈良時代の須恵器）

Ⅹ 事務所移転

平成 29 年 12 月末に富山市愛宕町から富山市婦中町速星の婦中行政サービスセンター3 階へ事務所を移し、平成 30 年 1 月 4 日から新事務所で業務を開始しました。

新事務所の連絡先　〒939-2798　富山市婦中町速星 754 番地
（婦中行政サービスセンター3 階）
TEL 076-465-2146　FAX 076-465-5032
E-mail maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp

建物外観



事務所案内模式図

ⅩⅠ 組織・事業費

1　組織

所長 ── 主幹学芸員 ── 所長代理 ── 専門学芸員 ──
- 主査
- 主査学芸員 7
- 嘱託学芸員 5
- 嘱託（安田城跡資料館）

（兼務 民俗民芸村篁牛人記念美術館専門学芸員）

（うち兼務 民俗民芸村考古資料館 2）

2　事業費（平成 29 年度当初）

総経費		163,011 千円
①　埋蔵文化財調査事業費		43,666 千円
（内訳）	埋蔵文化財調査費	18,004 千円
	普及事業費	235 千円
	センター移転事業費	9,968 千円
	施設管理事務費	15,459 千円
②文化財保護事業費		19,367 千円
（内訳）	文化財保護事業費	6,898 千円
	施設管理事務費	12,469 千円
③一般管理事務費		99,978 千円

講演記録　富山城下町から出土した陶磁器と生活

―発掘速報展 2017part2「富山城下町遺跡を掘る」特別講演会から―

佐々木　達夫
（金沢大学名誉教授）

１．江戸時代の城下町調査

江戸時代が終わり、明治時代になったのは 1867 年。日本の考古学の誕生とされる大森貝塚がモースによって発掘されたのは 1877 年、明治 10 年。今でいう縄文時代の貝塚発掘であった。その後、20 世紀には弥生時代や古墳時代と名付けられた時代の発掘が盛んになった。江戸時代の町や墓地が発掘されるのは 1970 年代になってからであった。縄文時代や弥生時代、古墳時代と比べると、江戸時代の遺跡が発掘の対象となるのは 100 年ほど遅い。

江戸時代が終わって 100 年後の 1970 年代、東京で江戸時代の遺跡の発掘が始まった。1980 年代には東京の江戸時代大名屋敷が大規模開発に伴って発掘され、江戸時代であっても考古学の発掘が様々な物を発見し、文書に記録されない様々な歴史が分かることが知られた。この傾向はしだいに地方都市に広がり、数少ないけれども地方都市の江戸時代の城跡が発掘されるようになった。続いて主要な城下町では城跡ばかりでなく、武士屋敷も発掘された。今は町人が住んだ町屋敷も発掘されることがある。最近は明治時代も発掘対象に含まれるようになりつつある。

江戸時代の遺跡は 1970 年代に調査され、当時の代表的な発掘遺跡は東京の都立一ツ橋高校地点、動坂遺跡、日枝神社境内遺跡であった。私は学生時代から有田、瀬戸美濃、九谷などで陶磁器を焼いた窯跡の発掘調査をしていたため、それらの遺跡出土陶磁器の報告書作成に関わった。そうした陶磁器を資料として、時代の移り変わりによって産地の生産量や製品の流通圏が変化し、生活で使われた陶磁器産地と種類の組み合わせに時代的な違いがあったことを指摘した。

それから 40 年が経過し、大規模で詳細な発掘調査が日本各地で実施され、遺跡の調査方法と陶磁器の産地と年代の研究が深まり、復元される生活の様相も複雑化し、地域的な違いや同じ地域における階層による違いが見えてきた。

２．江戸時代の陶磁器とは

江戸時代の陶磁器を概観する。以下は『日本史小百科・陶磁』近藤出版社（佐々木 1991）に書いた「江戸時代の陶磁器」の抜粋である。

江戸時代は陶磁器生産が全国各地に広がり、幕末頃には広く庶民まで陶磁器を使用するようになった。それぞれの土地の粘土を使用するので、地域的な特色のある製品も多い。民間の資本で築窯されるばかりでなく、各藩内の重要な産業の一つとして藩の庇護を受けることもあった。一方で、日本全国を覆う商圏を持つ大規模生産地も存在した。施釉陶器と施釉磁器の二種類が主要な製品である。多色釉を使用した華やかな陶磁器、精緻な文様を駆使した陶磁器も生まれ、華やかな生活用品としての陶磁器が作られた。主要な産地は肥前や京都、瀬戸などであり、そこから多くの陶工を呼びよせた新たな産地が各地に誕生した。既成の産

地も、優秀な技術をもつ陶工を招聘して、技術の向上を図った。江戸時代を通じて、生産量の多い地域は肥前と瀬戸の二地域で、京都や信楽などの近畿地方の窯がそれに次いでいる。

肥前地方は、唐津焼を基盤にして、革新的な技術の開発によって、新製品の磁器を作った。中国陶磁器の模倣を経て、日本独自の製品を作るようになり、伊万里として販売された。有田は 17 世紀後半から 18 世紀に色絵や染付を主とする海外輸出品を生産し、ヨーロッパに販売され、大きく発展した。海外市場の縮小に伴い、その後は国内販売に力を注いだが、磁器生産が日本全国で行われるようになると、その影響で市場占拠率は下がった。

瀬戸地方は中世以来の施釉陶器を引き継いで作った。江戸ではすでに 17 世紀から焼き物のことを瀬戸物といい、販売する店舗を瀬戸物屋と呼んだ。瀬戸の製品は、瀬戸物問屋を通して、関東地方など東日本に多く販売された。19 世紀には肥前の磁器に対抗するため、新製品の磁器生産に力を注いだ。

江戸時代は全国市場をもつ生産地と、地域色をもつ小規模産地があった。江戸時代後期には、全国各地で染付や様々な色釉で装飾された陶器が生産され、変化に富んだ製品が生まれた。磁器生産も幕末には各地でさかんになった。

３．出土陶磁器をどのように整理するか

大量に出土する陶磁器をどのように整理し報告しているか。江戸時代の絵図と比べ、どの屋敷地から出土したか、屋敷の遺構からか、井戸、土坑、溝の中からか。そういうことを記録し、遺構ごとに出土する組み合わせや量を知る。遺構の種類によって整理作業の優先度が変わる。明確に遺構として残る生活面に伴う出土品は重要だが、現在の都市と同じ場所にあり、浅いために遺跡の残る状態は悪い。富山城下町も遺構に伴わない陶磁器が多く、出土品の整理作業の優先度は、土坑、井戸、堆積する層の順となる。

土坑出土品のなかで、年代が推定できる陶磁器を利用しながら、土坑の年代を江戸前期、中期、後期、幕末明治、大正昭和などと分類する。屋敷内の一つの土坑出土品は量が少ないことが多い。その場合は、屋敷内の包含層出土品を合わせて整理すると、ある程度以上の量になり、他の屋敷出土品と比較することができ、屋敷の特徴を知る資料となる。

整理作業のなかで、出土したものの全体がわかるように実測や撮影用の陶磁器を選び出す。しかし、報告書に実測図や写真、説明文を記載できる数量は限られる。全体を網羅しているかどうかは、報告書を見る人にとって不明瞭である。少数しか出土していない破片が報告されると、それが多く出土したように錯覚することもある。そのため、出土全体量とそのなかで分類された同じ形式の陶磁器グループが占める割合を数字で表すことが良い。

定量的な紹介か、定性的な紹介か、あるいは生活用品や美術品など特殊なものを強調して紹介するか、一般的な種類と器種、文様の碗皿を網羅的に紹介するか。こうした点も発掘報告書に違いが出る要因となる。全体のなかでの出土割合を示すには、個体数、破片数、高台数、口縁部残存率の大きいものの数、重さなどを計測することが多い。破片数は割れ方の違いでその数が違うし、接合した場合と接合作業をしない場合でも違う。大型品と小型品ではかなり違い、大量に出土した場合は数えるだけでも労力がいる。量が少ない場合は数える意味がほとんどない。いずれの方法をとっても、他の遺跡出土品と同じ方法で計測すれば、それぞれの遺跡出土品の特徴や割合等が比較できる。不明な製品は写真のみを掲載するが、未報告となる場合もある。

初めに層位・遺構・時代等のいずれかの項目で分類し、さらにその中で大分類として生産地別、中分類として種類別、小分類として器種・器形あるいは形態別の項目を挙げることも多い。層位や遺構別の分類は後に変更されることはないが、時代や産地別の分類は変更が予想される。報告時点での研究成果に基づくので、研究の進展に伴って変更される。時代や産地は項目として挙げずに説明文に簡単に記載することも多い。報告書に掲載された陶磁器は、

このような整理作業の問題を反映している。

４．富山城下町から出土した陶磁器

富山城下町の遺跡から出土した陶磁器で、報告書が刊行されたものを見る。富山城下町の北陸街道の南側に面した建物の庭部分が 2013 年に発掘された。17 世紀後半から 19 世紀にかけての井戸、土坑、溝、ピットが発見され、中国の青花と青磁、土師器、越中瀬戸、越中丸山、唐津、伊万里、肥前、京焼系、信楽、志野、瀬戸美濃などの陶磁器が出土した（近藤、鹿島、他 2014)。報告書に紹介された陶磁器の一部を見よう。中国青花景徳鎮碗 1 点、漳州窯碗蓋 1 点、16 世紀。中国竜泉窯青磁 1 点。土師器皿 29 点、18～19 世紀。越中瀬戸素焼皿 12 点、鉄釉碗 2 点、灰釉・鉄釉皿（印花文あり）36 点、鉢・段重・片口・猪口・火入・火鉢・擂鉢など 16 点、壺 6 点、瓶 2 点、蓋 1 点。越中丸山焼碗 2 点、銅緑釉、褐釉流し掛け、磁器染付皿 1 点、鉢 1 点、壺 2 点、長石釉、灰釉。伊万里染付は碗 34 点、皿 20 点、鉢 12 点、瓶 3 点、蓋 8 点、波佐見くらわんか 18 世紀がないのは疑問点。唐津焼は碗 4 点、刷毛目碗 3 点、陶胎染付碗 1 点、皿 7 点、鉢 6 点、刷毛目、銅緑釉、三島手、甕 3 点。京焼系碗 8 点、灯明受皿 1 点、鉢 1 点、ビン盥（水入）1 点、髪油壺 1 点、徳利 1 点、急須 1 点。信楽は鉄釉碗 1 点、灯明皿 2 点、灯明受け皿 3 点、灰釉練鉢 1 点、鉄釉土鍋 1 点、灰釉蓋 1 点。瀬戸美濃は磁器染付碗 2 点、陶器碗 8 点（うち鉄絵碗 1 点、天目碗 2 点、灰釉碗 1 点、鉄釉拳骨碗 2 点)、磁器皿 2 点、陶器皿 12 点、鉢 6 点、瓶 4 点、土瓶蓋 1 点。志野皿 2 点、猪口 1 点、段重 1 点。瓦質土器は風炉 1 点、火入 1 点、火鉢 4 点、火消し壺 1 点、火消し壺蓋 1 点。この他、近代陶磁器に九谷碗などがある。

2015 年 6 月に見せていただいた富山城下町の資料のうち､17 世紀の陶磁器には以下のような特徴がみられた。漳州窯青花皿、景徳鎮青花皿、白磁皿が見られるが、赤絵はなかった。唐津皿はあるが、志野や織部はなかった。肥前磁器はあり、有田の山辺田青花皿もあった。肥前陶器の鉄釉擂鉢も見られ、瀬戸美濃や越前、常滑、備前の擂鉢はない。京焼、鍋島、瀬戸美濃、九谷はない。肥前や北九州の陶器は見られる。越中瀬戸、越中丸山の擂鉢や皿、碗があり、鉄釉製品は多く、他に白濁釉陶器小鉢がある。白濁釉陶器小鉢の釉色と製作技術は岸岳製品と似ている。それが 16 世紀末から 17 世紀初めの時期に作られたとすれば、両者に関係があった可能性もある。瀬戸の形と技術を取り入れた可能性のある鉄釉擂鉢もある。富山に九谷は流通していないが、越中瀬戸は金沢や小松に流通している。中越では越中瀬戸がほとんど見られないが、加賀には多く流通している。ただし、白濁釉陶器小鉢は石川県で見られない。波佐見青磁はあるが、くらわんかは少ない。波佐見くらわんかが少ないのは 18 世紀以降も続く。富山城下町の陶磁器組合せは、各産地の流通が金沢などと比べると異なる面がある。2016 年２月に見せていただいた富山城下 2015 年発掘品も同様の傾向があった。17 世紀初頃の唐津や美濃はきわめて少なく、溝縁皿はない。陶器は九州北部の各種陶器鉢、大皿が多く、同時期の越中瀬戸も多い。肥前擂鉢は少しあるが、萩の須佐唐津、越前、瀬戸の擂鉢はない。17 世紀後半から 18 世紀の京焼は少なく、色絵碗が僅かにある。京信楽系碗は少しある｡有田の染付皿は薄くきれいな文様の皿があるが､波佐見くらわんか碗が少なく、皿はない。19 世紀前後の広東碗や小丸碗はないが、明治の印判染付碗、皿、鉢がある。各種の陶器は各時代にあるが、18～19 世紀は越中の陶器が主となる。

５．種類と用途

陶磁器は皿、碗、その他と種類によって、また食器、台所用具などと用途によって分けられる｡多くの陶磁器が発掘された江戸の加賀藩など（東大構内遺跡）で次のように分類され、それぞれにアルファベットと数字が付される（「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類」『東京大学構内遺跡調査研究年報８』東京大学埋蔵文化財調査室、2012)。

胎質：磁器、陶器、土器。生産地：輸入陶磁器（景徳鎮系、漳州窯系、徳化窯系、龍泉窯系、宜興窯系、朝鮮、ベトナム、ヨーロッパ）、肥前系、瀬戸・美濃系、京都・信楽系、備前系、志戸呂系、常滑系、萩系、萬古系、大堀・相馬系、丹波系、堺系、益子・笠間系、九谷系、壷屋系、淡路系、不明。器種：碗、皿、大皿、燗徳利、鉢、杯ﾂﾁﾍﾝ、猪口、仏飯器、香炉・火入れ、瓶、御神酒徳利、油壺、蓋物、筆立て、壷・甕、急須、燗鍋、合子、水滴、蓮華、植木鉢、花生、片口鉢、灰落し、鬢水入れ、茶入れ、水注、屎瓶、擂鉢、餌入、火鉢、柄杓、鍋、土瓶、戸車、ちろり、薬研、手焙り、おろし皿、油受け皿、油徳利、行平鍋、十能、ひょうそく、瓦燈、カンテラ、ほうろく、七輪、涼炉、五徳、塩壷、燭代、蒸し器、懐炉、蓋。

この分類の組み合わせで１点のみを選んでも実測図や写真は数百点になる。種類として一般的な名称である白磁、青磁、染付、黒釉陶器、彩画陶器なども、産地と器種の間の項目として用いることが多い。太平洋側と流通圏が異なる日本海側の富山県・石川県では、江戸時代・明治時代の場合、例えば九谷焼をさらに分ける。種類では量的に多い九谷焼は陶器である。磁器は染付、色絵など、産地では九谷古窯と再興九谷、再興九谷は春日山窯、若杉窯、八幡若杉窯、吉田屋窯、民山窯、小野窯、松山窯、卯辰山窯、大樋窯などと分ける。こうした項目はさらに細分が可能で、それぞれの項目で組み合わせると、報告書に掲載する陶磁器の数はより増える。越前窯や越中瀬戸窯など、江戸では分類項目に挙がらないものが富山や金沢で見られる。

八幡若杉窯跡など 19 世紀再興九谷の１つの窯跡でも多くの種類や器種が作られている。1 つの器種でも多くの形や文様がある。どこの遺跡でも大量に出土する種類や器種については、文様の違いや時期の違いで、実測図と写真が増える。報告書のなかで、どのようなバランスで紹介するかが問題となる。一つの器形だけでなく組物としてまとめるか、文様によってさらに細分するか。こうした点も遺跡の残存状態や出土状況によって、報告書ごとに違う。

６．産地と流通

多くの産地の陶磁器がまじる。そのうち加賀藩領内にあった越中瀬戸焼は 16 世紀末頃から今の立山町で始まった。桃山時代頃の窯跡は、小二郎の山下窯、彦右衛門窯、孫市窯が知られている。山下窯跡から採集された陶器は灰釉印花文陶器皿、灰釉無文陶器皿、鉄釉陶器皿を始め、壺や鉢、擂鉢など各種の器形がある。陶器皿は内面と高台が無釉のもの、内面全面に灰釉を掛けたものがある。印花文は美濃大窯と類似するが文様が煩雑となり区別できる。菊花文皿も菊弁部分は棒状ではなく下方が太く上部は細い。美濃と類似した小型の匣鉢を積み上げて焼成している。江戸時代の窯跡は上末や瀬戸に集まり、江戸時代後半には農業を営みながら生活用の陶器を作ったと言われる。17 世紀前半の富山や金沢、小松の城下町から、越中瀬戸焼の鉄釉陶器皿碗鉢が比較的多く出土している。素地は赤色で、かせた鉄釉が周辺に掛けられ、内面と高台部は無釉の重ね焼き皿が多い。

７．焼物屋はあったか

まだ発掘されていないが、富山城下町には焼物屋が店を構えていたのであろう。金沢では現在も続いている江戸時代の焼物屋が絵図に描かれている。昭和の幻の東京オリンピック記念杯が出土した富山の焼物屋は、安田城資料館に展示され、詳しく紹介されている。

産地に焼物を注文することもあり、その場合は店から買う方法と違う。現在の鳥取県米子市に住んでいた大庄屋近藤家の分家の喜右衛門が有田か伊万里に来た際に、有田の窯焼に焼物を注文した。2011 年に焼物 82 点と関連する古文書４点が子孫の池田さんから有田町歴史民俗資料館に寄贈された。それによると、喜右衛門は蓑五郎に８月２日、手紙を書いた。他の文書から見て天保 15（1844）年である。有田皿山の窯焼、諸隅喜右衛門が近藤蓑五郎に送

った手紙には、季節の挨拶、注文を受けたお礼、焼き直しで送るのが遅れたが焼き上がったこと、残金を送るよう依頼、注文の残金を早く送ってもらえれば、中鉢１枚をおまけしたい、これからも注文をよろしく、という内容が記されている。焼物籠は３つで、種類、個数、大きさ、文様、価格、伊万里からの運賃も記されている。種類を挙げると、茶碗、盃、四段重、大鉢、中鉢、さし味（鉢）、箸立、香炉、大丼、中丼、盃台、小皿、手汐（皿）、中茶碗、中皿、ならちゃ（碗）がある。数量はそれぞれ１枚から５枚程度が多いが、葵手茶碗は 60 個、他の種類で 78 個もある。茶碗１個は 200 文、300 文と記されたものがあり、有田町歴史民俗資料館の尾崎の推定では現在の１万円から１万 5 千円ほどとなる。尺 5 寸の大鉢は１個 30 万円ほどで、近藤家は一度に 20 両、600 万円もの焼物を発注したことになる。これは 170 年前のことである。富山城下町でも同様のことがあったのだろうか。

８．他地域の遺跡出土陶磁器と比較した富山城下町の陶磁器

各地域に様々な規模の陶磁器の産地がある。その地域内産地に近い城下町では、その製品が多く出土する傾向がある。北陸地方の地域的な特徴として、越中瀬戸や再興九谷の陶磁器が他地域より多い、言いかえるとそれらは他の地域から発見されることは稀である。外国産の陶磁器は江戸や京都、長崎と比べて少ない。肥前磁器は全国的な流通圏を確立したために金沢や富山など北陸地方でも多く出土している。日本海流通の共通性がある新潟県内の遺跡出土陶磁器の傾向は富山県や石川県の遺跡と類似している。

2005 年から 2012 年に発掘された金沢城内の陶磁器。本丸附段、本丸北部、本丸南東部、東ノ丸の調査区から出土したのは陶磁器と瓦が主で、金属製品、石製品が僅かにある。金沢城内の発掘では地点によって時代の異なる陶磁器が見られる。2007 年から 2011 年に発掘された金沢城内の陶磁器は、近世初と近代が多く、17 世紀中頃から 18 世紀前半が抜けている。16 世紀後半から 17 世紀初の景徳鎮磁器が多く発見され、漳州窯磁器もあり、ベトナム陶器など茶道具も含まれる。17 世紀前半は金沢城で茶道具が多く出土した。肥前陶磁器や高取、備前、信楽、越前、越中瀬戸、九谷、再興九谷、瀬戸美濃は小松城下町にもある。17 世紀初は金沢城出土品に高品質の大皿などがあるが、京焼や萩、須佐唐津は見られず、日常生活用の有田や波佐見も少ない。これは発掘された場所が 17 世紀初を主とした層のためである。金沢城では 18 世紀後半から 19 世紀前半の肥前と瀬戸の染付が主で、碗が多く、皿、小杯もある。出土品に日常生活用の陶器がきわめて少ない。

新潟町は信濃川河口に近い中州に新造された湊町である。以前の湊は土砂堆積により機能が衰え、長岡藩は幕府に町建てを申請し明暦元年（1655）に許可がおりた。16 世紀末頃から 17 世紀初めに広がる唐津陶器は少なく、志野織部はない。17 世紀第二四半期の肥前染付皿が少し目立ち、青磁香炉が僅かに見られる。これらは中国陶磁器を含めて、移転してきた町からの搬入品であろう。多くの陶磁器は町が建造された 17 世紀後半以降のものである。出土品には近世日本海に流通した陶磁器の基本となる種類と器種が見え、17 世紀後半の肥前の磁器と陶器が中心となる。有田の染付碗皿と武雄の二彩唐津鉢壺や三島鉢、京風陶器碗、内野山の銅緑釉陶器皿が見られる。擂鉢は肥前、備前、丹波、須佐唐津、越中瀬戸が少しずつ混じる。こうした様相は他の日本海側の町から出土する 17 世紀後半から 18 世紀前半の陶磁器組合せとほぼ同じである。18 世紀の有田や波佐見でもっとも多く作られ流通した染付碗皿が目立つ。一般的な大量生産された流通品が多くを占め、その他の種類は数が少ない。富山の越中瀬戸の擂鉢や碗鉢はやや目立つものであり、越中瀬戸流通圏の東域を知るうえで良い資料である。越前も少し見られる。19 世紀以降は陶器が増える。九谷銘の色絵磁器もある。こうした点は日本海側の共通的な傾向である。

新潟津では中国陶磁器が極めて少ないが、17 世紀初めの景徳鎮と漳州窯が見られる。朝鮮陶磁器、東南アジア陶磁器、ヨーロッパ陶器はない。鍋島、京焼や信楽、瀬戸美濃などの製

品がほとんど出土しない。東日本太平洋側で流通した小さな産地の陶器も見られない。町屋敷で使用した一般的な有田や波佐見の陶磁器であり、富裕な商人が好むような特殊な製品がきわめて少ない。良質の陶磁器は有田南川原の染付芙蓉手大皿で、鍋島などの高級磁器はない。中国陶磁器も粉彩を含む数点の景徳鎮染付と、漳州窯の呉須赤絵皿と染付が数点ある。西堀前通５地点から漳州窯と南川原染付大皿が出土しているが、他の発掘地点では一般的な陶磁器が多く出土している。波佐見のコンプラ瓶は珍しいが、北海道やカラフトから出土する流通路を示す一つの証拠となる。

2015 年 8 月 2 日に福井城下町の資料品を見学した。16 世紀後半の陶磁器もみられ、中国の白磁皿や美濃瀬戸の灰釉丸皿・菊皿、景徳鎮の青花碗皿など。16 世紀末から 17 世紀前半の陶磁器には以下のような特徴がみられた。景徳鎮青花小碗、碗、皿は目立つが、漳州窯青花皿は僅かしかなく、赤絵はない。唐津陶器は皿や鉄絵皿、鉄絵碗、灰白色の釉碗がある。溝縁皿もある。志野や織部もあり、角皿などもある。美濃瀬戸の黒釉碗がある。肥前磁器碗皿は他と比べると多いようである。肥前陶器の鉄釉擂鉢は少ない。越前の擂鉢はあるが、瀬戸美濃や常滑、備前の擂鉢はない。17 世紀後半から 18 世紀前半は、京焼碗鉢が少しあるが、信楽などと同様に多くはない。肥前の染付碗皿はあるが、それと比べて波佐見のくらわんか碗皿は非常に少ない。瀬戸の碗も少ない。波佐見くらわんかが少ないのは 18 世紀以降も続く。鍋島や九谷はない。越中瀬戸や越中丸山は見られない。18 世紀代の陶磁器は少ないが、19 世紀の陶磁器は増加する。

ここでは金沢城、新潟町屋、福井城下町の出土陶磁器を概観した。他の地域の城下町出土陶磁器も同様に概観すると、富山城下町の陶磁器の特徴が見えてくる。

９．陶磁器から見る富山城下町の生活

江戸時代、発掘された陶磁器のかけらから富山城下町の生活の一端が見えてくる。多く発見された陶磁器は、日本各地の武家屋敷や町屋、一部の農村で使われた一般的なものと類似している。日本という地域をほぼ覆う流通圏のなかに組み込まれた地方の受容と地方ごとに流通する商品の様相、産地が大量生産したものを購入し、注文品よりも一般的な商品を使ったことがわかる。特殊で高価な陶磁器はほとんど見られない。江戸で多く見られる美濃瀬戸は少なく、京で広く見られる京焼は少なく、京信楽も量は多くなく、長崎や江戸で少量見られる中国の陶磁器はきわめて少なく、分厚い漳州窯はあっても景徳鎮やヨーロッパ陶器、朝鮮陶磁器はない。備前や常滑などもない。商圏と産地から運ぶ距離とも関連している。

肥前の磁器と陶器、さらに萩の須佐唐津、島根県の岩見、福井県の越前が流通する日本海側の共通性に加えて、江戸時代前半は越中瀬戸があり、江戸時代後半に越中瀬戸が増加している。加賀藩であった小松、金沢、富山、隣の藩であった福井城下町や新潟港町では越中瀬戸が見られるが、他の地域ではほとんど見られない。新潟で松郷焼、小松では九谷焼が増え、それぞれの地域で生産された陶磁器が多く含まれる傾向は同じである。17 世紀代の陶磁器は漆継、19 世紀代の陶磁器は焼継したものが見られ、割れたものは修繕して使う全国的な傾向と同じである。食事内容と陶磁器組み合わせには関連があった。藩や町人の経済力、食事作法などから遺跡出土の陶磁器を見ることも重要である。

研究報告 1　境野新遺跡の再評価と古沢塚山古墳の出現

小黒　智久
（埋蔵文化財センター主査学芸員）

はじめに

富山市では、平成29年度に古沢地区の境野新遺跡公園の環境整備事業を行った(6p参照)。小文は、地域の5世紀史の再評価により、見学者の現地学習の一助とすることを目的とする。

1　境野新遺跡（富山市教育委員会 1974）の再評価

第1号住居跡（竪穴住居跡）の竪穴内からは、住居で使われていた5世紀前葉の土器が多数出土した。また、床面近くには炭化した屋根材（垂木）の一部が遺存していた。これらは火災の際、屋根に被せられていた土が屋根材と共に落下して屋根材を覆ったことで屋根材付近が不完全燃焼となり、遺存したのである。このことから、第1号住居は土屋根だったことがわかる。また、屋根材は竪穴の壁際に設けられた壁溝（排水溝）が埋まった後に落下していた。つまり、空き家になってしばらく経ってから廃屋を安全に解体するために焼却処分したのである。

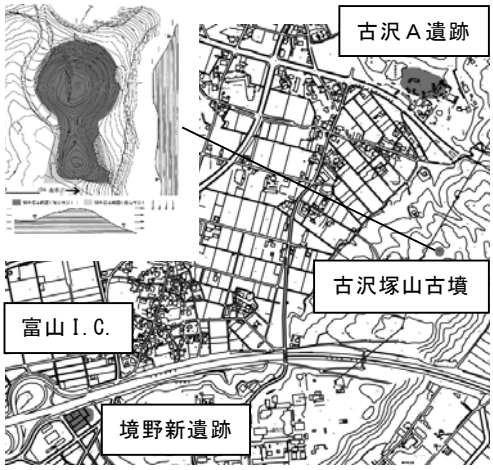
住居跡出土炭化屋根材

壁溝付近の土器出土状態

2　古沢塚山古墳の出現と5世紀の古沢地区の歴史的意義

福井県若狭町水月湖年縞堆積物の分析により3世紀前葉から日本海の海面が上昇して若狭は湿潤期となり（福澤 2000)、尾瀬ヶ原泥炭層の花粉分析により3世紀中葉からは寒冷化も加わった（阪口 1995）ことが判明した。このような気候変動下で、急峻な地形、かつ砂丘があっても小規模だった富山県域では海面上昇や降水量増加の影響も強く受け、居住・生産・交通などの諸環境が悪化したことにより新潟・福島県域などへと集団移住した結果、人口が激減した。その後、70年ほど湿潤期を脱したが、再び湿潤期に入った4世紀中葉には神通川が流路を変えるほどの大洪水が発生し、地域社会は復興に向けて長く困難な時期を辿ったことが遺跡の分析から判明した（小黒 2017)。移住せず、富山県域に留まった人びとは少数だったため、県内各地の遺跡発掘調査で発見される5世紀の竪穴住居跡は現在でも少数のままなのである。

5世紀前葉の境野新遺跡や5世紀中葉の古沢Ａ遺跡を残した人びとは、困難のなか社会の復興に尽力した数少ない人びとの一部である。復興を導いたリーダーが全長約 42ｍの前方後円墳である古沢塚山古墳に葬られた。古沢塚山古墳の被葬者はヤマト王権とも関係を築いたことで、日本海側北東限の中期前方後円墳として築かれたのである。



境野新遺跡と関連遺跡の位置

文献

小黒智久　2017　「北陸北東部の古墳出現期社会と地域間関係、気候変動」『古代文化』第69巻第2号　（公財）古代学協会
阪口　豊　1995　「過去1万3000年間の気候の変化と人間の歴史」『講座文明と環境6』朝倉書店
富山市教育委員会　1974　『富山市境野新遺跡発掘調査報告書』
福澤仁之　2000　「堆積作用と環境」『環境と人類』　朝倉書店

研究報告 2　諸国での人面墨書土器出土状況について(1)

堀沢　祐一
（埋蔵文化財センター所長）

はじめに

平成 7(1995)年に、富山県富山市豊田大塚・中吉原遺跡の平安時代の溝から律令期祭祀遺物である人面墨書土器(以下、人面土器)や人形など木製祭祀遺物(9 世紀後半)が出土した。このことを契機として、平成 12 年頃に各地でのこれら遺物の出土状況を調査したことがある。この時点から数十年が経過し、当時と現在の諸国（畿内を除く）における人面土器の出土状況について概観したい。

1　平成 12(2000)年頃の様相(図 1) (2)

人面土器は、都城を中心として畿内から以東での出土が顕著である。畿内を除くと、陸奥国・出羽国(東山道)、常陸国・下総国・伊豆国・遠江国(東海道)、越中国(北陸道)での出土事例が多い。次に、各国の主な事例について触れておく。

陸奥国は、多賀城跡の南面に所在する山王遺跡、市川橋遺跡(ともに宮城県多賀城市)から 160 点近くが報告されている(8 世紀末～9 世紀前半頃)。出土遺構は河川や道路側溝などで、人形や斎串などの木製祭祀遺物が伴うことがある。また、宮城県栗原市(旧金成町)の沢辺遺跡から土師器長胴甕(8 世紀末)が 1 点あり、本遺跡の北東約 8 ㎞に伊治城跡が位置している。

福島県いわき市の荒田目条理遺跡では、「磐城□　磐城郷　丈部手子麿　召代」と墨書がある土師器鉢(8 世紀後半)が 1 点、溝から出土している。斎串 29 点、人形 18 点、馬形 3 点など木製祭祀遺物が伴っている。本遺跡の南東約 1.5 ㎞に磐城郡家(根岸遺跡)が比定されている。

また、福島県喜多方市(旧塩川町)の鏡ノ町遺跡Ｂでは、河川から須恵器の杯を利用した人面土器(9 世紀前半)が 2 点出土し、うち 1 点には人物全身像と「古得」の墨書が見られる。木製祭祀遺物は伴わない。耶麻郡家等に関連する郡司クラスとの関わりが指摘されている。

岩手県奥州市(旧水沢市)の胆沢城跡から須恵器杯片に描かれた人面土器(9 世紀前半)が確認されている。青森県域では出土事例がない。

出羽国では、秋田城跡(秋田県秋田市)から 8 点が確認されている(9 世紀)。外郭東門の東側に位置する沼地から出土している。すべて土師器甕や杯を使用し、目のみを表現する土器もある。木製祭祀遺物は、斎串、人形、馬形などがあり、斎串は 100 点以上の点数を数える。

現在の山形県域では、酒田市(旧八幡町)俵田遺跡など 5 遺跡から 5 点が出土している。俵田遺跡の祭祀遺構(祓所)はよく知られており、9 世紀中葉頃とされている。祭祀遺構内には、人面土器 1 点、斎串 87 点、人形 16 点、馬形 10 点、刀形 3 点が集中して出土している。人面土器には「礒鬼坐」の墨書が残る。本遺跡の北西約 1.8 ㎞には城輪柵跡が所在する。

また、酒田市横代遺跡や酒田市に隣接する遊佐町上高田遺跡では、河川から大量の斎串等の木製祭祀遺物とともに人面土器(土師器甕、9 世紀前半)が確認される。酒田市(旧平田町)山海窯跡の土坑から須恵器杯(9 世紀後半)が出土しており、生産遺跡での貴重な事例である。

常陸国では、鹿の子Ｃ遺跡(茨城県石岡市)など 7 遺跡から約 20 点が確認されている(8 世紀後半～10 世紀)。常陸国府に関わる官営工房と評価されている鹿の子Ｃ遺跡では 14 点(土師器甕)が報告されているが、それ以外の遺跡では、各 1 点程度である。

石岡市北の谷遺跡の人面土器(9 世紀中葉)は、土師器長胴甕体部に顔とともに人名と考えられる「馬飼」某と墨書が残り、骨蔵器とする説がある (3) 。常陸国では、竪穴住居や土坑などから出土しており、木製祭祀遺物は伴わないようである。

下総国では、千葉県八千代市上谷遺跡など 7 遺跡から約 10 点(土師器杯、甕、8 世紀後半

～9 世紀後半)が出土しており、出土遺構はすべて竪穴住居や竪穴状遺構である。顔とともに、人名や年号などの墨書が書かれる事例が多く、顔がヘラ書きされる場合もある。

千葉県佐倉市の八木山ノ田遺跡から「仏面墨書土器」(土師器甕、8 世紀後半)があり、郷境での在地神の祭祀や道行きの安全などを祈る儀礼行為が行われたと考察されている。

同じ千葉県域である上総国の芝山町庄作遺跡（9 世紀前半）でも、顔と文字が墨書される人面土器が出土している。「召代」、「神奉」と記されていることから、人面土器の顔を国神と位置づけ、国神を饗応するための土器であると解釈されている(4)。

伊豆国では、静岡県三島市箱根田遺跡の河川から 12 点(土師器、8 世紀後半～11 世紀前半)が出土している。斎串 31 点、人形 10 点、馬形 3 点、舟形 3 点の木製祭祀遺物が伴う。本遺跡の北方約 4 ㎞には、伊豆国府が比定されており、伊豆国府や田方郡家に関わる津の祭祀場と考えられている。

遠江国では、静岡県浜松市の伊場遺跡など 7 遺跡から 29 点(8 世紀前半～9 世紀前半)が出土している。伊場遺跡や梶子遺跡は、伊場遺跡群として捉えられおり、敷智郡家と推定されている。両遺跡間でつながる、大溝から土師器杯と甕を用いた人面土器が見られる。伊場遺跡では斎串 167 点、人形 23 点、馬形 11 点、舟形 46 点など、梶子遺跡では斎串 19 点、人形 6 点、馬形、舟形などの木製祭祀遺物がある。同磐田市の御殿・二之宮遺跡から 11 点出土している(8 世紀前半～9 世紀前半)。木製祭祀遺物は、斎串 66 点、人形 21 点、馬形 3 点、舟形 8 点などが伴う。本遺跡を遠江国府とする説がある。伊豆国や遠江国では、1 遺跡からの出土点数が多い。

越中国では、豊田大塚・中吉原遺跡など 4 遺跡から約 10 点が確認されている(8～9 世紀)。出土遺構は川や溝であり、土師器甕や須恵器杯を使用し、都城の人面土器を模倣した土器もある。斎串や人形などの木製祭祀遺物が伴っている。筆者は、これらの遺跡を越中国府や郡家に関わる祭祀場と推定している。

畿内から以西では、美作国・周防国(山陽道)、筑前国・肥前国・肥後国(西海道)で確認される。筑前国では 10 点ほど出土しているが、他国では 1 点程度で点数は少ない。

美作国の国司迫遺跡(岡山県勝央町)から把手付き土師器甕がある(奈良時代後半)。

周防国では、周防国府跡(山口県防府市)の土師器甕(8～9 世紀)の口縁部片に眉、目が描かれ、出土遺構は溝である。また、政庁と推定される地区の奈良時代初期の溝から、人面墨書石が出土しており、「土師器に描かれた場合と同様の意図をもつ」と推定されている(5)。

筑前国は仲島遺跡(福岡県大野城市)など 4 遺跡から約 10 点(8 世紀後半～9 世紀前半)が、溝などから出土しており、高畑遺跡や井相田Ｃ遺跡（ともに同福岡市）では、斎串や人形などの木製祭祀遺物がある。九州大学筑紫キャンパス遺跡（同春日市）では 3 点あり、うち 1 点は土師器瓶の肩部片に墨書される。南東約 3.8km に大宰府政庁が位置する。

肥前国の水之江遺跡(佐賀県佐賀市)から土師器坩(奈良時代後半)が 1 点ある。

肥後国では、熊本県熊本市新屋敷遺跡から 1 点(9 世紀末～10 世紀初め)出土している。土師器の杯外面に眉、鼻、目などが描かれるようである。

２　平成 29(2017)年の様相(図 2)

平成 12 年頃の調査時から、数十年経過したが、畿内から以東での出土事例が顕著なのは変わらない。また、当時に出土事例が確認されている国では増加する傾向にある。

主な事例をみると、陸奥国では多賀城跡の南面にあたる市川橋遺跡での出土点数が多く、山王遺跡と合わせ、破片も含め総数 330 点以上も報告されている。河川、道路側溝、溝などからの出土で、土師器甕が主体である。都城型の模倣土器や祭祀専用土器の存在が指摘されている(6)。人の全身や仏画、半人半獣、怪物？を描く土器もありバラエティーに富んでおり、人名などの文字が墨書される土器もある。また、木製祭祀遺物を伴う場合もある。

また、荒田条理遺跡に隣接する砂畑遺跡では、12 世紀前葉～中葉の溝から人面土器片（土師器、甕）を含め 4 点が出土している。うち 1 点には、顔とともに「節」の文字が見られる。

福島県会津若松市の鶴沼Ｂ遺跡の流路から土師器杯（9 世紀後半）が出土しており、顔と渦巻き記号が墨書されている。現在でも、青森県域からの出土事例はない。

常陸国では、茨城県稲敷市神屋遺跡の大型円形土坑から土師器鉢（10 世紀前葉）が 1 点あり、「人面土器を水に流す行為を土坑に投げ込む行為へと変化して行われた」と考えられている(7)。常陸国の人面土器は水に関わるところではなく、主に竪穴住居や土坑などから出土する傾向にあり、現在のところ 10 遺跡から 24 点が確認されている。

下総国では、北下遺跡（千葉県市川市、8 世紀末～9 世紀前半）の旧河道から人面土器 17 点、斎串約 40 点、人形 7 点、形代約 30 点が出土している。人面土器には、土師器甕と杯が使用され、杯が 14 点と多くを占める。仏像と光背を墨書した土器や文字が書かれる土器もある。本遺跡は、下総国府推定地や下総国分寺、下総国分尼寺に隣接しており、関連性が指摘されている。下総国の人面土器は 9 遺跡で約 28 点になる。

下総国や上総国では、これまでの人面土器の出土のあり方から「集落遺跡からの出土が大半であること。これらの集落遺跡は、官衙的要素を持たない一般の集落遺跡であること。竪穴遺構（住居跡等）から出土していること。」が特徴として指摘されているが(8)、北下遺跡では、旧河道からの出土事例で、下総国府域にも隣接しており、都城的な祭祀のあり方を示している。諸国が人面土器をどのように受容したのかを考えるための好例である。

遠江国では、敷智郡家とされる伊場遺跡群の鳥居松遺跡（静岡県浜松市）の伊場遺跡から続く大溝から、3 点（土師器甕、杯、8 世紀後葉～9 世紀前半）出土している。斎串 44 点、人形 6 点、馬形 6 点、舟形 4 点の木製祭祀遺物もある。遠江国の人面土器点数は 7 遺跡で 32 点を数え、太平洋側では最多となる。

越中国では、富山県高岡市の下佐野遺跡（9 世紀）、同石名瀬Ａ遺跡（8 世紀後半～9 世紀初頭）、同出来田南遺跡（8 世紀後半～9 世紀前半）、同射水市赤井南遺跡（9 世紀後半）から出土している。すべて土師器甕を使用し、出土遺構は溝で、斎串や人形などの木製祭祀遺物が伴う場合もある。また、同富山市の花ノ木Ｃ遺跡には、「顔のない人面土器」（8 世紀後半）が存在していると私考している。前回の調査時から出土遺跡数や点数も増加しており、越中国では 8 遺跡から約 30 点が確認されている。日本海側では最多の点数を誇る。

筑前国では、下月隈Ｃ遺跡（福岡県福岡市）の川跡から斎串、人形とともに、1 点人面土器（8 世紀、土師器甕）が出土している。仲島遺跡や高畑遺跡、井相田Ｃ遺跡に隣接している。これらの遺跡は、大宰府政庁跡の北西方向に約 8km に位置し、「水城の外側の位置する官道や河川に隣接するもので、大宰府に入る穢れ等を祓う祭祀の場」と推測されている(9)。

平成 12 年頃には出土事例が確認されていなかった東海道の武蔵国や北陸道の能登国、加賀国、越前国、畿内以西では、南海道の阿波国、西海道の薩摩国での出土報告がある。北陸道での出土が顕著である。

武蔵国は、東京都府中市の武蔵国関連遺跡から 1 点（人面土器の可能性がある土師器甕が 4 点ある。）出土しており、9 世紀後半～10 世紀前半とされる。土師器台付甕で、顔の様相は、如来形の仏面を表現した「仏面墨書土器」と報告されており、内面にも墨書がある。木製祭祀遺物は伴わない。旧河川からの出土である。

能登国では、小島西遺跡（石川県七尾市）で 2 点（土師器、9 世紀前半～中頃）出土している。本遺跡では、8～12 世紀にかけて、1,000 点にも及ぶ斎串、人形などの木製祭祀遺物が確認されており、能登国府や香嶋津に付随する祭祀場と考えられている。

福井ナカミチ遺跡（同志賀町）では 3 点（9 世紀中頃～後葉）が、自然流路から確認されている。確実に人面土器とされるのは 1 点であり、須恵器杯を利用している。斎串と考えられる木製祭祀遺物が 2 点伴っている。寺社が深く関与した祭祀行為が行われたと推定されている。

また、森本Ｃ遺跡(同宝達志水町、8 世紀末～9 世紀初頭)でも 1 点ある。河道からの出土で、土師器鉢を使用しており、仏鉢型土器で、顔は倒位に描かれる。底部には「中山寺」の墨書がある。寺院や公的施設が存在したことが想定される。木製祭祀遺物は伴っていない。

加賀国では、加茂遺跡(石川県津幡町、9 世紀中頃)、福増カワラケダ遺跡(同金沢市・9 世紀前半)から各 1 点が確認されおり、ともに土師器甕である。加茂遺跡では、古代北陸道を横切る溝から出土している。福増カワラケダ遺跡では、溝からの出土で、斎串 31 点、人形約 60 点、馬形 5 点などの木製祭祀遺物がみられる。東方に所在する東大寺領横江荘遺跡と隣接しており、荘家推定建物に関わる祭祀場と推定されている。

越前国では、福井県福井市の高柳遺跡から平安時代の人面土器が 2 点出土している。河川からで、使用する土器は祭祀専用とされる。本遺跡からは人形、陽物形がある。

畿内以西では、阿波国の徳島県徳島市観音寺遺跡から 3 点(9 世紀後半～10 世紀前半、10 世紀前半～11 世紀初頭)出土している。土師器甕片や杯を用いており、人物画と「恵師殿」「盞」「斗」を墨書する土器もある。人面土器が出土している自然流路からは、約 1,100 点の木製祭祀遺物(8 世紀～10 世紀前半、斎串約 750 点、人形約 200 点、舟形約 100 点など)が確認されている。遺跡の周辺には、阿波国府の所在が推定されている。

薩摩国は、鹿児島県薩摩川内市の川骨遺跡から出土事例が 1 点ある。土師器杯(9 世紀第 3 四半期)体部に、目を表現したとされる〇が 2 つと「御前舎入□(公・分・長？)家　方神郡進出」と墨書がある。祭祀の主体が「郡」と考えられている。本遺跡の北側に流れる川内川を挟んで、薩摩国府、薩摩国分寺の推定地が所在している。

３　まとめ

現在のところ、人面土器の出土状況は、平成 12 年頃の調査時と同様に畿内以東での事例が顕著である。畿内を除くと約 570 点が確認できた。特に陸奥国から 330 点近くが出土しており(ほとんどが多賀城跡周辺)、都城に匹敵する点数を誇る。次いで、遠江国、越中国、下総国、常陸国となり、点数は 30 点前後を数える。また、1 遺跡からの出土点数が多い。これら諸国は、前回の調査時から確認事例が増加しており、人面土器を使用する祭祀行為が浸透している地域であると考えられる。畿内以東では、点数は少ないが、北陸道での出土事例が増加している。畿内以西では、阿波国と薩摩国で確認されている。また、筑前国では 10 点ほどが出土しており、畿内以西においては、比較的点数が多い地域である。

時期は 8 世紀から 12 世紀までに確認される。出土点数の多い国では 8 世紀代から認められ、8 世紀代に集中する国（遠江国)、8 世紀末～9 世紀前半の点数が多い国（陸奥国、下総国、越中国、筑前国)、9 世紀中頃～後半の多い国（出羽国、常陸国）に分かれるようである。

出土遺構は、河川や溝など水に関わる遺構がほとんどであるが、常陸国、下総国、上総国、相模国など東国では竪穴住居や土坑などから出土する場合が多い。

使用される土器は、土師器の甕が大半（約 78%）を占める。次に多いのは土師器杯（約 11%）である。須恵器の場合は、ほぼ杯（約 6%）に限定される。出土遺跡の性格としては、城柵や国府、郡家など官衙に関連する遺跡が多く、下総国、上総国では、官衙的要素を持たない一般の集落遺跡から出土している。出羽国の生産遺跡からの出土は特異な事例であり、「その操業・運営はおそらく国府主導で行われた」と指摘されている(10)。

最後に課題を挙げておきたい。現在、人面土器が出土していない国では、この土器が存在しなかったのであろうか。筆者は以前に、顔を描かない人面土器「顔のない人面土器」について検討したことがある。木製祭祀遺物に共伴するほぼ完形に近い土師器の甕類、底部に穿孔を施すなど加工がある土器、在地で特色のある土器は、顔がなくても人面土器と同様の性格を持つと考えている。

人面土器がない国では、斎串や人形などの木製祭祀遺物が出土するケースが多く、上記の

視点を踏まえながら、木製祭祀遺物のみの出土諸国の様相も含めて、今後検討していきたい。

本稿をまとめるにあたっては、多くの方にお世話になった。ここに記して謝意を表したい。
荒木志伸、伊藤武士、江口桂、大橋泰夫、柴田博子、菅波正人、菅原祥夫、田尾誠敏、
田中弘志、永山修一、平野修、山路直充、吉村武彦（五十音順、敬称略）

注

(1) 本稿は、平成 29 年度越中史壇会研究発表大会(平成 29 年 8 月 20 日開催)において、「越中国から見た律令期祭祀遺物」の発表内容及び「発表要旨(越中史壇会 2017『富山史壇 第 184 号』に掲載)」をもとに、その後の調査成果等を踏まえて作成したものである。

(2) 筆者が行った平成 12 年頃の調査データに、現在との比較を行うために、その後の各遺跡の調査年や成果などを考慮して再構成したものである。

(3) 吉澤悟 1999「茨城県石岡市北の谷遺跡出土人面墨書土器の検討」『筑波大学先史学・考古学研究 第 10 号』筑波大学考古学フォーラム

(4) 平川南 2000『墨書土器の研究』株式会社吉川弘文館

(5) 防府市教育委員会 1967『周防の国衙』

(6) 坂本勝彦 2016「茨城県内における人面墨書土器の出土について」『研究ノート 第 13 号』公益財団法人茨城県教育財団

(7) 柳沢淳一 2011「国府多賀城の祭祀」『東北歴史博物館研究紀要 12』東北歴史博物館

(8) 藤岡孝司 2004「【千葉】上総国・下総国・安房国」『シンポジウム 古代の祈り人面墨書土器からみた東国 発表要旨・東国人面墨書土器集成』株式会社盤古堂

(9) 菅波正人 2007「日本海域における古代の祭祀－木製祭祀具を中心として－(九州地方)」『平成 19 年度 環日本海文化交流史調査研究会 日本海域における古代の祭祀－木製祭祀具を中心として－ 発表要旨・資料集』財団法人石川県埋蔵文化財センター

(10) 村木志伸 2005「東北地方の人面墨書土器－その分布と出現の背景－『東北芸術工科大学紀要№12』東北芸術工科大学

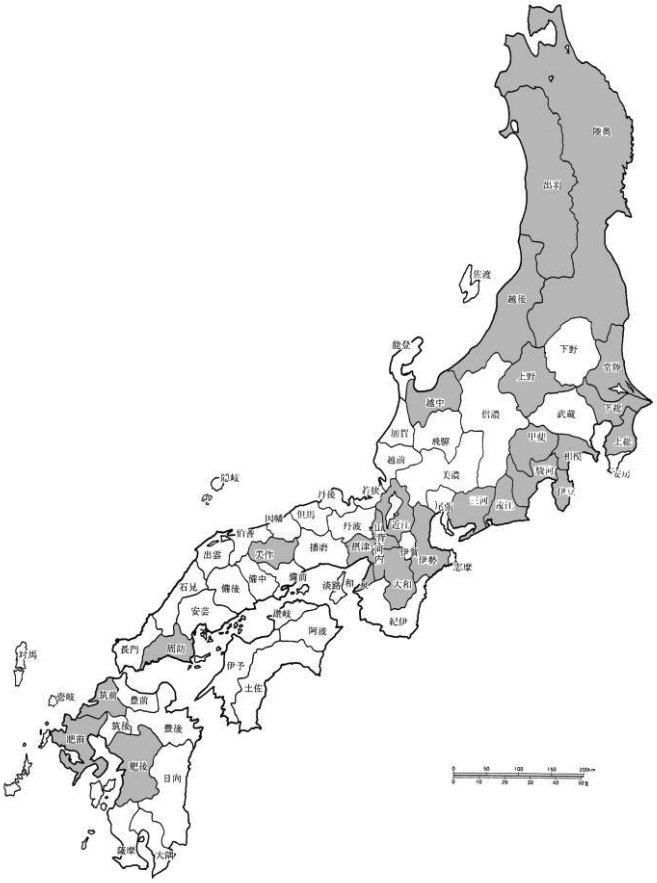


図１　人面墨書土器出土国分布図(平成 12 年頃)

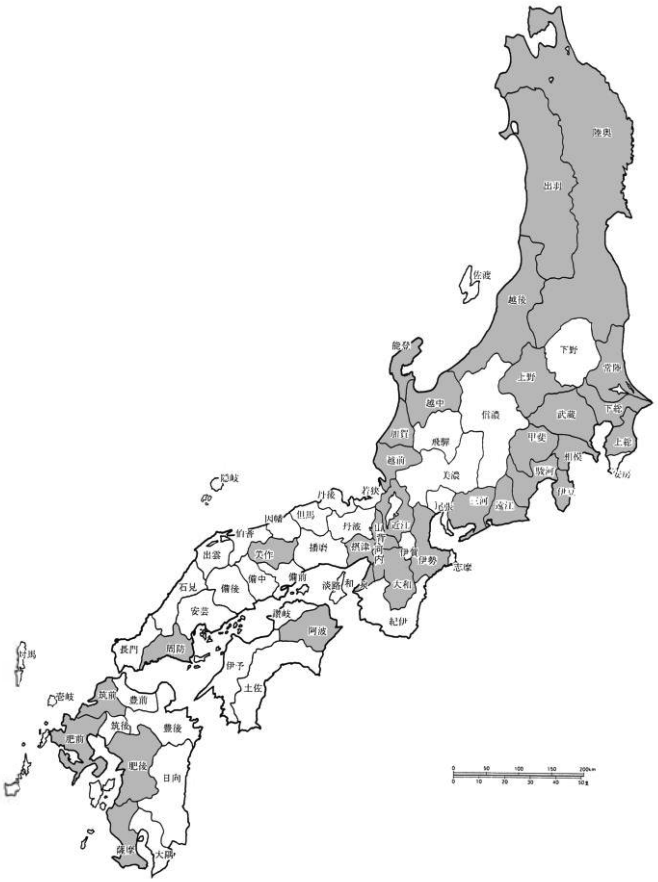
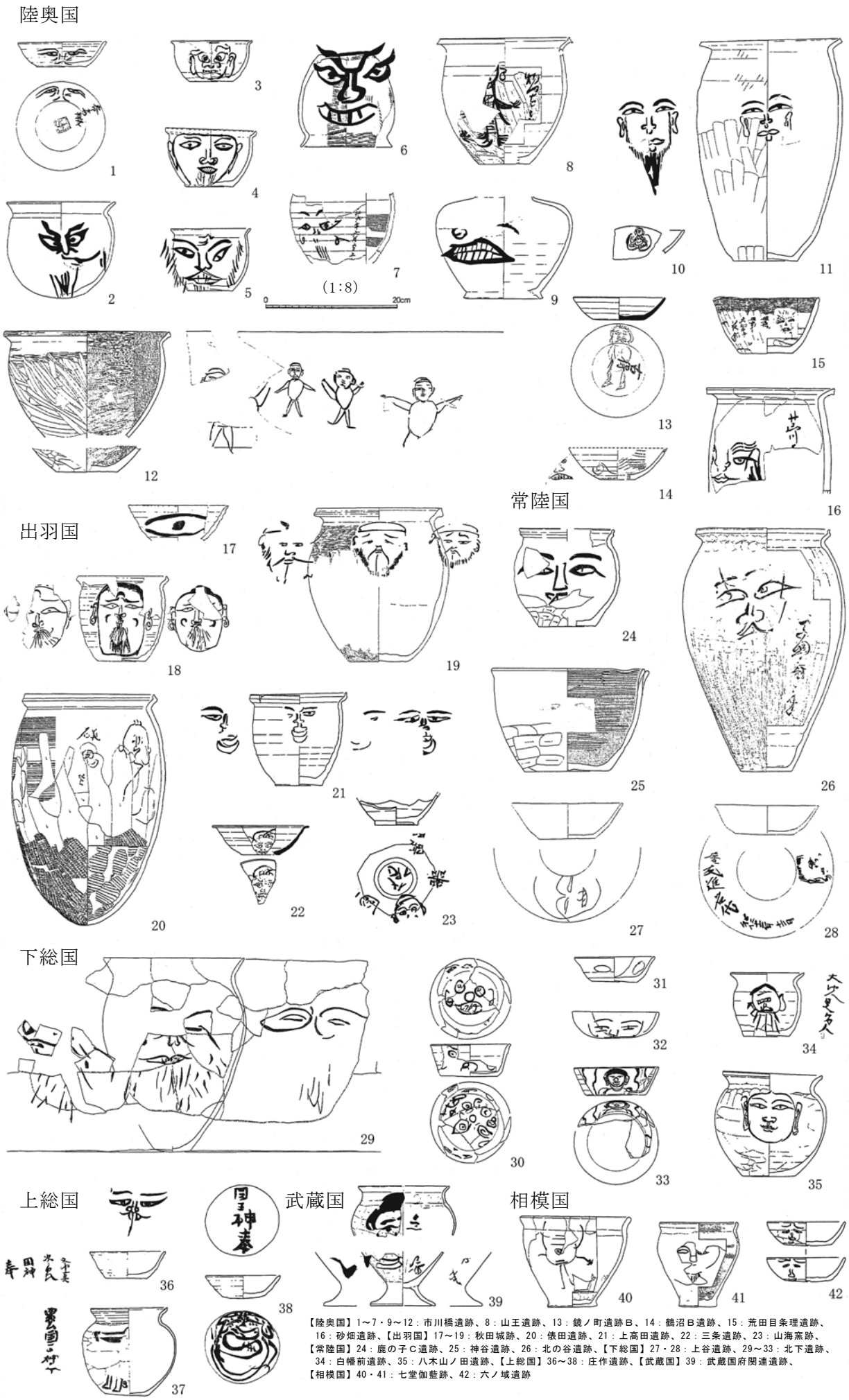


図２　人面墨書土器出土国分布図(平成 29 年)

図１・図２は、各遺跡の発掘調査報告書、博物館等の展示図録、人面墨書土器に関する論文、田中勝弘 1973「墨書人面土器について」『考古学雑誌 第 58 巻第 4 号』日本考古学会、国立歴史民俗博物館 1985『国立歴史民俗博物館研究報告第 7 集 共同研究「古代の祭祀と信仰」』、金子裕之 1991「律令期祭祀遺物集成」『律令制祭祀論考』、株式会社盤古堂 2004『シンポジウム 古代の祈り人面墨書土器からみた東国 発表要旨・東国人面墨書土器集成』、ジャパン通信社『月刊文化財発掘出土情報』、日本考古学協会『日本考古学年報』、ニューサイエンス社『月刊考古学ジャーナル』などを参考にして作成した。



【陸奥国】1～7・9～12：市川橋遺跡、8：山王遺跡、13：鐙ノ町遺跡Ｂ、14：鶴沼Ｂ遺跡、15：荒田目条理遺跡、16：砂畑遺跡、【出羽国】17～19：秋田城跡、20：俵田遺跡、21：上高田遺跡、22：三条遺跡、23：山海窯跡、【常陸国】24：鹿の子Ｃ遺跡、25：神谷遺跡、26：北の谷遺跡、【下総国】27・28：上谷遺跡、29～33：北下遺跡、34：白幡前遺跡、35：八木山ノ田遺跡、【上総国】36～38：庄作遺跡、【武蔵国】39：武蔵国府関連遺跡、【相模国】40・41：七堂伽藍跡、42：六ノ域遺跡

図３　畿内以東の主な人面墨書土器(1)(1：8)

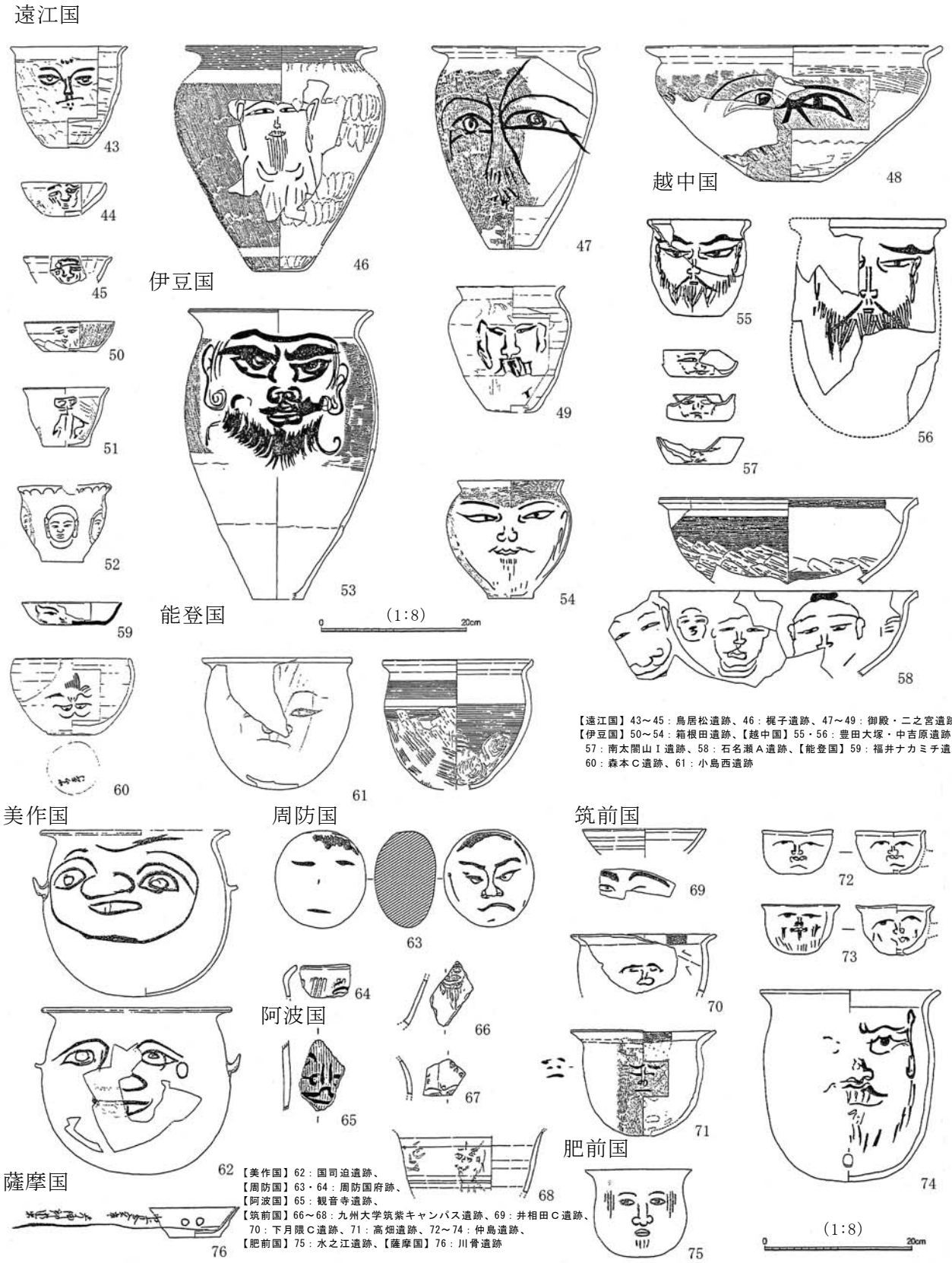


図４　畿内以東の主な人面墨書土器(2)、畿内以西の主な人面墨書土器(1：8)

出 典

1・7：宮城県教育委員会ほか 2001『市川橋遺跡の調査』、2：多賀城市 1991『多賀城市史 第４巻 考古資料』、3・12：多賀城市教育委員会ほか 2003『市川橋遺跡』、4～6・9～11：多賀城市教育委員会ほか 2004『市川橋遺跡』、8：宮城県教育委員会ほか 1996『山王遺跡Ⅲ』、13：福島県耶麻郡塩川町教育委員会 2001『鏡ノ町遺跡Ｂ』、14：福島県教育委員会ほか 2016『西木流Ｄ遺跡(２次) 鶴沼Ｂ遺跡(２次) 西坂才遺跡(２次)』、15：いわき市教育委員会ほか 2001『荒田目条理遺跡』、16：いわき市教育委員会ほか 2002『荒田目条理制遺構・砂畑遺跡』、17～19：秋田市教育委員会ほか 2008『秋田城跡Ⅱ－鵜ノ木地区－』、20：山形県ほか 1984『俵田遺跡第２次発掘調査報告書』、21：財団法人山形県埋蔵文化財センター1998『上高田遺跡第２・３次発掘調査報告書』、22：財団法人山形県埋蔵文化財センター2001『三条遺跡第２・３次発掘調査報告書』、23：山形県教育委員会ほか 1992『山海窯跡群第２次 山楯７・８遺跡 山楯楯跡発掘調査報告書』、24：財団法人茨城県教育財団 1983『鹿の子Ｃ遺跡』、25：公益財団法人茨城県教育財団ほか 2016『清水古墳群 神屋遺跡 神屋南遺跡』、26：吉澤悟 1999「茨城県石岡市北の谷遺跡出土人面墨書土器の検討」『筑波大学先史学・考古学研究 第 10 号』筑波大学考古学フォーラム、27・28：八千代市教育委員会 1998『上谷遺跡から見つかった二つの人面土器』、29～33：公益財団法人千葉県教育振興財団ほか 2014『市川市北下遺跡(9)～(12)』、34：財団法人千葉県文化財センターほか 1991『八千代市白幡前遺跡』、35：財団法人印旛郡市文化財センター2000『千葉県佐倉市八木山ノ田遺跡(第２次)』、36～38：小原子遺跡群調査会ほか 1990『千葉県芝山町小原子遺跡群』、39：府中市教育委員会ほか 2005『武蔵国府関連遺跡調査報告 35－国府地域の調査 27－』、40・41：財団法人かながわ考古学財団 2010『小出川河川改修事業関連遺跡群Ⅲ 茅ヶ崎市七堂伽藍跡(２)』、42：平塚市教育委員会 1992『天神前・桜畑遺跡他』、43～45：財団法人浜松市文化振興財団 2009『鳥居松遺跡５次 伊場大溝編』、46：財団法人浜松市文化協会『梶子遺跡Ⅸ』、47～49：御殿・二之宮遺跡調査会 1995『御殿・二之宮遺跡第６次発掘調査報告書』、50～54：三島市教育委員会 2003『箱根田遺跡』、55・56：富山市教育委員会 1998『富山市豊田大塚遺跡発掘調査概要』、57：富山県教育委員会 1985『南太閤山Ⅰ遺跡』、58：高岡市教育委員会 2012『石名瀬Ａ遺跡調査報告』、59：石川県教育委員会ほか 2017『羽咋郡志賀町 福井ナカミチ遺跡』、60：石川県教育委員会ほか 2008『宝達志水町 森本Ｃ遺跡』、61：石川県教育委員会ほか 2008『七尾市 小島西遺跡』、62：山本昭 1972「美作出土の人面墨描き土器」『古代文化 第 24 巻第３号』財団法人古代学協会、63、防府市教育委員会 1967『周防の国衙』、64：防府市教育委員会 1997『平成７年度防府市内遺跡発掘調査概要 周防国府第 93・95 次調査』、65：徳島県教育委員会ほか 2008『観音寺遺跡(Ⅳ)』、66～68：山根謙二 2009「【特論】筑紫地区出土墨書土器の再検討」『奴国の南－九大筑紫地区の埋蔵文化財－』九州大学総合研究博物館、69：福岡市教育委員会 1987『井相田Ｃ遺跡Ⅰ』、70：福岡市教育委員会 2007『下月隈Ｃ遺跡Ⅶ』、71：福岡市教育委員会 2001『高畑遺跡 17 次』、72～74：大宰府市 1992『大宰府市史 考古資料編』、75：田中勝弘 1973「墨書人面土器について」『考古学雑誌 第 58 巻第４号』日本考古学会、76：鹿児島県立埋蔵文化財センター2011『川骨遺跡・西之城遺跡・川幡遺跡』

研究報告 3

富山藩家老富田氏下屋敷跡出土の恵比須土面について

鹿島昌也・宮田康之
（埋蔵文化財センター主査学芸員）・（埋蔵文化財センター嘱託学芸員）

はじめに

富山城下町に位置する千石町遺跡（千石町五丁目）の平成 29 年 10 月の試掘調査で、19 世紀以降の瀬戸美濃焼等と伴に恵比須をモチーフにした土面が 1 点出土した（図１）。場所は、江戸後期には富山藩家老富田氏下屋敷跡に当る。明治時代以降は日本精薬院という製薬会社となる。本稿では、土面が出土した背景を探る。

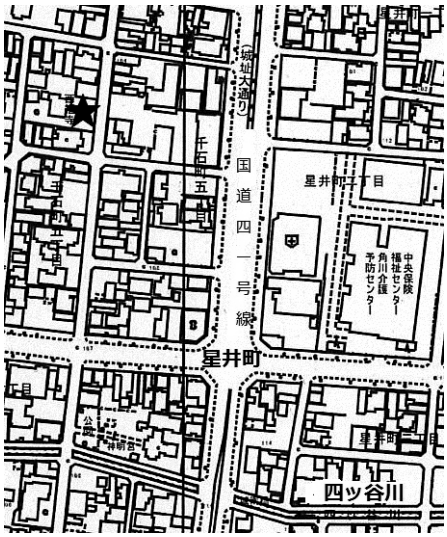


図１　恵比須土面出土地点（★）

１　土面の概要

土面は残存幅 25 ㎝、残存長 25 ㎝、厚さは平均すると約 3 ㎜を測り、薄いところで 1.5 ㎜になる。素焼きであるが、頭部に黒色で被り物の表現が施される。表面の一部に白土による白化粧および顔料のようなものの付着が認められ、当初は表面にも着色が施されていた可能性もある。裏面に多くの指頭圧痕が残り、型押し成形されている。眼球と鼻、口の部分が開口しており、耳の上部に紐を通すための穴があり、いずれも焼成前に穿孔されている（写真２）。紐穴周辺に紐ずれ痕は観察できなかった。胎土は浅黄橙色を呈し、砂粒を殆ど含まず、堅緻な焼き上りで手に持つと軽く（約 340ｇ）、表面・内面に雲母粉が観察される。

出土状況は、地表下約 1ｍの地点からみつかり、試掘トレンチの暗褐色の土層断面にみえており、平面的な遺構の状況は確認できていないが、土坑の覆土中からの出土と推測される。土面が出土した層のさらに上部には明治時代以降の火災層とみられる焼土や洪水堆積による砂層が確認できることから、土面は江戸時代後期～幕末期の遺物と推測される。

写真１　千石町遺跡出土土面

図１　千石町遺跡出土土面実測図 1)

写真２　土面の紐穴

２　富山藩士富田氏の変遷

富山藩士に富田氏は複数存在するが、ここで取り扱う富田氏は富山藩成立時の最高禄者である富田右衛門尉直治の家系である。『富山藩侍帳』『富山藩士由緒書』によると富田氏は代々「家老職」に就いている。初代藩主前田利次入国時には「御後見」（後見役）を担い、初期には「大老職」「城代」といった要職も務めている。その禄高は寛永 17（1640）年の富山藩成立時に 8630 石と富山藩士の中で最高禄者である。禄高は徐々に減り、元禄 6（1693）年に 3000 石となるが、その後も富山藩士の最高禄者である。

出土遺物の時期にあたる 19 世紀代には「富田下総」「富田筑後」「富田讃岐」の名が見える〔高瀬保 1987〕。また、富山城下町の絵図で調査地を見てみると、天保年間に描かれた「御城内外御焼失御絵図面」（富山県立図書館蔵）で「富田下屋鋪」とあり、安政年間に描かれた「越中富山御城下絵図」（富山県立図書館蔵）で「富田下総下屋鋪」とある。天保年間以前の絵図では、他氏の屋敷地であったようだが、19 世紀代は富田氏の屋敷地であったことがわかる。

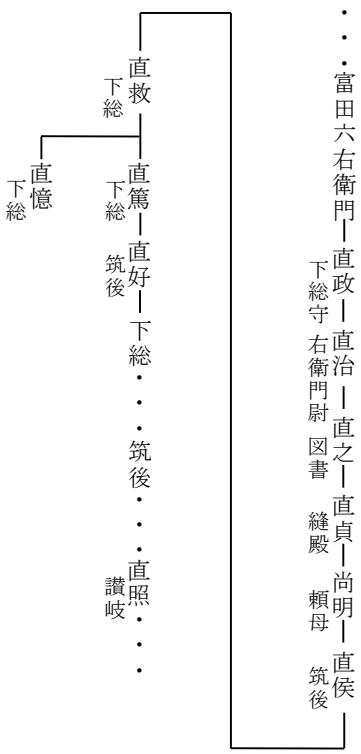


図２　富田氏家系図

３　恵比須信仰について

恵比須は、他に恵比寿・蛭子・夷・胡などの字があてられ、遠方から来て人々に幸いをもたらす神、漂着神という性格が強いようで、県内の恵比須信仰は現在も海岸部を中心に各地に残る。黒部市では「生地えびす祭り」で大型の恵比須・大黒の木像が登場し、同市宇奈月町では、能登のアエノコトに似た「えびす迎え」の行事がある。射水市の西宮神社では「ボンボコ祭り」という漁師達による恵比須の春祭りが行われている。魚津市の諏訪神社には元々西宮社があり、今は社殿に恵比須像が祀られている。氷見では江戸時代後期に多くの恵比須神が勧請され、魚取社では大漁や漁の安全を祈願するえびす講が現在でも行われている。

旧富山藩領内には、藩の港町西岩瀬に四方恵比須町がありその西隣、四方港町に恵比須神社（写真３）が鎮座する。明治 40 年に恵比須宮が四方神社に合祀されたが、漁民の念願で現在の場所に鎮座した。祭神を船に乗せ四方浜港湾を一周する「えびす祭り」が行われている。

また、富山城下町の立町（現・白銀町）に恵比寿神社（写真４）がある。由緒には徳川家康が江戸馬喰町の下野屋儀兵衛方に在宿中、不忍池に沈んでいた蛭大明神の像を富山城下に

写真３　富山市四方港町 恵比須神社
（富山湾・能登半島を望む）

写真４　富山市白銀町 恵比寿神社
（左に国道 41 号線）

鎮座せよとの神託があり、東田地方町に富山城の鬼門除けの守神、商業繁昌の守護神として鎮座されたと伝わる。現在の東京都中央区日本橋馬喰町周辺には、日本橋本町三丁目に宝田恵比寿神社（写真５）や日本橋堀留町一丁目に恵比須神を祀る椙森神社が鎮座する。椙森神社には、江戸期の富興行を記念した富塚がある。恵比須神は漁業神である一方、商売繁昌や交易、農作物の生育など生業全体の神として広く都市や農村部にも浸透していた。

写真５　東京都中央区日本橋本町 恵比須神社（日本橋七福神の一社）

４．恵比須土面の背景について

文化 14（1817）年、当時御用番だった富田筑後は「神通古河筋魚殺生停止につき申触書」(高瀬 1992）を出し、神通古河の下流にあった宮尾村より西岩瀬川尻までの漁場に気を配っていた。古河尻は早くから藩主の漁獲場でもあった。富山藩は寛政 10（1798）年「魚売買縮方につき申渡書」を出し、魚の統制強化を行い、天保 11（1841）年に魚問屋役所を設けるなど藩の主要産業である漁業への藩政の注力がうかがえる。

写真６　射水市中央町 四日曽根諏訪神社の奉納額

この土面の類品として、射水市中央町に鎮座する四日曽根諏訪神社の社殿に掲げられている奉納額がある[2]。恵比須、大黒、福禄寿を額（幅 134 ㎝、高さ 89㎝）に括り付けた土面が明治６年に奉納されている(写真６)。向って右端の大黒が、千石町遺跡出土土面に似た大きさで、幅約 25 ㎝、長さ 21 ㎝を測る。頭部には立体感のある大黒頭巾を被る。中央の恵比須は幅 43 ㎝、長さ 46 ㎝と大型である。頭部の烏帽子の表現方法（額の部分が平面的で直線的な表現など）が出土土面に類似する。額の恵比須・大黒は素地の上に白土による白化粧を施し、その上に淡橙色の着色を施す。一部に髭や眉などを着色し、剥落しているが口の周りにも赤色顔料がみえる。地元には、神社の東側に神楽川が流れ、「恵比須神は釣漁を広め、諏訪神は網漁を広めた」との口伝があり、川魚漁に関わる漁民が豊漁などを祈念し奉納したことも推測される。近くの放生津八幡宮の末社には、八重事代主命（恵比須大神）を祭神とする魚取社がある。珠洲の神（能登)、美保の神（出雲）とも呼ばれ、豊漁や海の安

写真７　奉納額の土面と出土土面の比較

全を祈願したとみられる。川・海双方の恵比須信仰が浸透していた地域で類似する土面を確認することができ、千石町遺跡出土土面の背景を類推する手掛かりとなる。

また、恵比須土面出土地の南西 200mの武家地跡からは「諏訪大明神」と内面に墨書した越中瀬戸焼の素焼き皿（鹿島 2013）が出土し、狩猟・漁業神でもある諏訪神の信仰も富山城下において浸透していたことを物語っている。

一方、富山藩 10 代藩主前田利保は、嘉永 2（1849）年に隠居した後、千歳御殿に能楽堂を設け自らも演舞し、能面・装束などを製作したという（富山市 1987）。また、富山天満宮内（現・於保多神社）には能舞台が建立され、富山町人や近郷の有力農民などにも神事能の観覧が許されていた。富山町では江戸後期以降に芝居や浄瑠璃の興行も盛んになるなど、神楽や稚児舞、芸能関係の行事に使用される面として製作されたことも推測されるが、出土土面は非常に薄く作られ、芸能面としての実用に耐え得るかなど今後の検討課題としたい。

おわりに

富田氏は代々藩の要職に就いており、藩の主要産業の一つである漁業の振興にも気を配っていたことがうかがえる。恵比須土面が出土した富田氏下屋敷は富山城大手門から南に延びる千石町通りに面し、鰤街道とも呼ばれる飛騨街道（太田口通り）と合流し、城下から飛騨へ向かう交通の要衝であった。元禄 3（1690）年には富山町の出入り口七か所に門柵を作って取り締まりが行われ、その一つが千石町口であった。鰤をはじめ飛騨登魚として多種の魚が飛騨へ運ばれたが、天保 11（1840）年に設置された魚問屋役所では、特に飛騨登魚に対する役銭取り立てを強化するなど、藩の主要交易品である魚の流通・管理を徹底していた。

富田氏下屋敷跡での恵比須土面の出土は、漁業を生業とする地域のみならず、江戸時代後～幕末期の都市部においても漁業神である恵比須を祀る風習・信仰が浸透していたことを物語る貴重な資料である。

その一方で、江戸時代後期には室町時代から始まったとされる七福神の信仰が浸透し、七福神巡りやえびす講などが行われていたことが推測される。商売繁昌、福徳将来を願う縁起物として恵比須土面が製作され、神社に奉納されたり商家の家々に飾られたりしていたこともあっただろう。武家である富田氏がどのような経緯で恵比須土面を入手し、下屋敷で保管・使用していたのか、今後もこの土面の用途や城下町における恵比須信仰の実態に迫っていきたい。

注

1）　実測図は西村玲子による。

2）　射水市新湊博物館の松山充宏氏からご教示いただき、2018 年 2 月 6 日に実見した。
その際に、神社を管理する大伴泰史氏（放生津八幡宮）や氏子総代の方々にお世話になった。

文献

伊藤曙覧　2002　『越中の民俗宗教』日本宗教民俗学叢書６　岩田書院

鹿島昌也　2013　「中世富山城推定地」から「千石町遺跡」へ」『富山市の遺跡物語』No. 14

小境卓司　1987　「えびす信仰ノート」『氷見市立博物館年報』6

坂井誠一　1974　『富山藩　加賀支藩十万石の運命』　巧玄出版

高瀬保編　1987　『富山藩侍帳』越中資料集成１　桂書房

高瀬保編　1992　『町吟味所御触留』越中資料集成４　桂書房

富山市 1987　『富山市史　通史＜上巻＞』

新田次郎編　1988　『富山藩士由緒書』越中資料集成２　桂書房

細川修ほか　1999　『定本　鰤街道　その歴史と文化』　郷土出版社

吉井貞俊　1989　『えびす信仰とその風土』　国書刊行会

吉井良隆　1999　『えびす信仰事典』　戎光祥出版株式会社

研究報告 4　生産地と消費地における越中丸山焼の火鉢について

宮田　康之
（埋蔵文化財センター嘱託学芸員）

はじめに

平成 29 年 3 月 23～24 日と 4 月 18 日に越中丸山焼陶窯跡の調査を実施した。出土遺物は越中丸山焼の火鉢、碗、香炉のほか、匣鉢、焼台などがある。このうち調査区出土の火鉢は素焼き品のため、同年 11 月 11 日に施釉・絵付が施された越中丸山焼「色絵人物草花文火鉢」を所蔵する磯野氏宅において鹿島昌也埋蔵文化財センター主査学芸員と高木好美民俗民芸村学芸員と宮田が所蔵品を実見し、生産地と消費地における越中丸山焼の火鉢の状態に主眼をおいて、調査区出土の火鉢と比較検討した。本稿ではその結果を報告する。

1　越中丸山焼陶窯跡出土の火鉢

越中丸山焼は富山市八尾町丸山で天保元（1830）年に山本甚左衛門が開窯した。天保 8 年、富山藩 10 代藩主前田利保は殖産事業を遂行するために産物方を設置し、越中丸山焼はその一環として藩の保護を受けた。陶工・絵師は伊万里・九谷等から招き、在来の陶土を使用したが一部原料は同方面から取り寄せていたようである。このため伊万里・九谷風の作品が多い（注 1）。

調査区出土の火鉢（写真 1）は復元径で口径 15.8cm、底径 16.7cm であり、高さは 18.0cm を測る。素焼きの土器である。口縁部は内側に湾曲し、体部は達磨型を呈する。底部は削り出し高台である。高台内底面には外面から内面方向に貫かれた径 2～3mm の 2 つ並列した小孔が 2 か所認められる。この小孔は高台内底面に施釉する際に吊るすためと考えられるが、使用時に木製の台に固定するための可能性もある（注 2）。

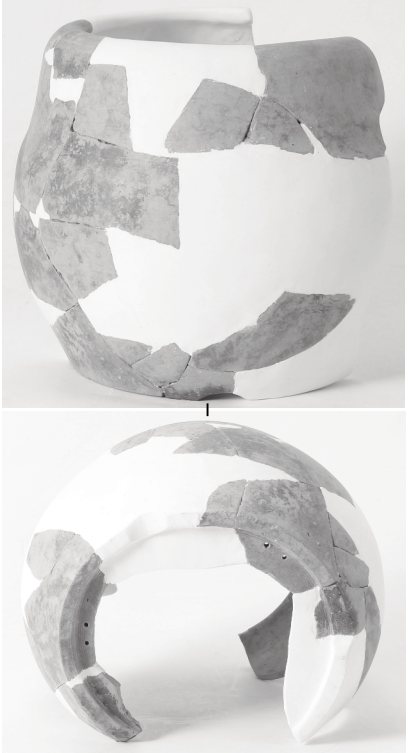


写真 1（上：側面、下：底部）

2　磯野氏所蔵の越中丸山焼「色絵人物草花文火鉢」

磯野家は近江国（現在の滋賀県）の戦国大名浅井氏に家老として仕えるなどした後、富山藩士として代々仕えた家柄である（注 3）。禄高は 200～450 石を与えられ、馬廻組や小姓組の地位にあった。富山藩士としての 6 代当主磯野織部充賀は、天保 8（1837）年 10 月に富山藩 10 代藩主前田利保から産物方を命じられた（注 4）。この役目において功績があったことから利保より越中丸山焼「色絵人物草花文火鉢」（写真 2）を拝領したと考えられ、もとは一対をなしていた（注 5）。

写真 2

磯野氏所蔵の火鉢は口径 27cm、底径 22cm、高さ 22cm である。口縁部は内側に湾曲し、体部は樽型を呈する。底部は削り出し高台である。外面全体に施釉され、高台畳

付は釉剥ぎが行われている。内面は無釉で、白化粧土が施される。外面各所には色絵の上絵付がなされ、口縁部は雷文が描かれる。体部は 4 か所に窓枠を設けて唐人を描き、それぞれの窓枠の間には黄で牡丹、緑で唐草などの草花文が描かれる。体部下方には区画文を全周にめぐらし、それぞれの区画に緑で 5 本の縦線、黄で蓮弁が描かれる。高台内底面には全体に緑の色絵が施され、外面から内面方向に貫かれる 2 つ並列した小孔が 3 か所認められる。また、福の落款が見える。色絵の作風は九谷焼を思わせる。

３　考察

調査区出土の火鉢と磯野氏所蔵火鉢の口縁部（写真 3）と底部（写真 4）をそれぞれ比較してみると、口径・底径ともに調査区出土の火鉢は小さい。口縁部が内側に湾曲する点、底部の削り出し高台、畳付の形状に加え、底面にみられる外面から内面方向に貫かれた 2 つ並列した小孔が共通する。これらの点から調査区出土の火鉢と磯野氏所蔵火鉢は、大きさの点では異なるが形状では共通点がみられる火鉢であるといえ、同じ器種での施釉・絵付前後の状態が明らかとなった。

写真 3（左：所蔵品　右：出土品）

写真 4（上：所蔵品　下：出土品）

おわりに

今回、はじめて越中丸山焼陶窯跡の調査を実施したことで、施釉・絵付されていない素焼きの土器である調査区出土の火鉢と施釉・絵付された磯野氏所蔵の火鉢を比較し、同じ器種の生産地と消費地でのそれぞれの状態を明らかにすることができた。今後、今回の調査結果を踏まえて富山藩が保護した越中丸山焼の流通過程など更なる解明に努めていきたい。

本稿の作成に際して、磯野宗和氏からご教示や資料の実見・掲載などにご配慮いただいた。記して謝意を表したい。

注

(1)愛知県陶磁資料館 1990『企画展　越中のやきもの』29 頁参照。

(2)江戸遺跡研究会 2001『図説江戸考古学研究事典』206 頁参照。

(3)、(5)磯野宗和氏のご教示による。

(4)新田次郎編 1988『富山藩士由緒書』「八〇、磯野織部」

文献

愛知県陶磁資料館　1990　『企画展 越中のやきもの』

江戸遺跡研究会編　2001　『図説江戸考古学研究事典』柏書房

坂井誠一　1974『富山藩 加賀支藩十万石の運命』巧玄出版

定塚武敏　1974『越中の焼きもの』　巧玄出版

新田次郎編　1988『富山藩士由緒書』越中資料集成２桂書房

矢部良明ほか編　2002『日本陶磁大辞典』　角川書店

富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報

富山市の遺跡物語　第 19 号

平成 30（2018）年 3 月 30 日

編集・発行　富山市教育委員会埋蔵文化財センター

〒939-2798 富山市婦中町速星 754 番地

TEL.076-465-2146　FAX.076-465-5032

E-mail：maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp

印刷：有限会社ヤツオ印刷